

第七十三回 帝國議會 臨時租稅增徵法中改正法律案外七件委員會議錄(速記)第十七回

		會 議	
		昭和十三年三月九日(水曜日)午前十一時開 議	
出席委員左ノ如シ		堀内 良平君	川副 隆君
委員長 高橋熊次郎君		佐藤洋之助君	板谷 順助君
理事岡本實太郎君	理事岩瀬 亮君	宮本雄一郎君	服部 岩吉君
理事西村金三郎君	理事東條 貞君	岡田 忠彦君	山川頼三郎君
理事玉野 知義君	理事河野 密君	森田 福市君	坂田 道男君
前田房之助君	渡邊玉三郎君	片山 哲君	三木 武夫君
勝 正憲君	矢野庄太郎君	馬場 元治君	
小畑虎之助君	田村 秀吉君		
同日委員堀内良平君及豊田收君辭任ニ付其 ノ補闕トシテ田村秀吉君及野中徹也君ヲ議 長ニ於テ選定セリ			
		出席國務大臣左ノ如シ	
		大藏大臣 賀屋 興宣君	
		文部大臣 兼 厚生大臣	賀屋 興宣君
		農林大臣 伯爵有馬 賴寧君	
		商工大臣 吉野 信次君	
出席政府委員左ノ如シ			
		大藏書記官 田中 豊君	
		文部參與官 池崎 忠孝君	
		農林省農務局長 小濱 八彌君	
		商工省商務局長 新倉 利廣君	
		貿易局長官 寺尾 進君	
本日ノ會議ニ上リタル議案左ノ如シ			
		所得稅法中改正法律案(政府提出)	
		臨時租稅增徵法中改正法律案(政府提出)	
		相續稅法中改正法律案(政府提出)	
		登錄稅法中改正法律案(政府提出)	
		酒造稅法中改正法律案(政府提出)	

付託議案  
臨時租稅增徵法中改正法律案(政府提出)  
府提出  
所得稅法中改正法律案(政府提出)  
相續稅法中改正法律案(政府提出)  
大正九年法律第十二號中改正法律案(政府提出)  
酒造稅法中改正法律案(政府提出)  
及酒精含有飲料稅法中改正法律案(政府提出)  
(政府提出)  
支那事變特別稅法案(政府提出)  
麥酒稅法中改正法律案(政府提出)  
利得稅法ノ施行ニ關スル件  
臨時租稅措置法案(政府提出)  
國稅徵收事務共助法案(政府提出)  
昭和十二年法律第八十四號中改正  
事費支辨ノ爲公債發行ニ關スル  
關東局朝鮮總督府、臺灣總督府及  
樺太廳ノ一部ニ相當スル金額等ヲ臨  
時軍事費特別會計ニ繰入ルルコト  
ニ關スル法律案(政府提出)  
昭和十三年度一般會計歳出ノ財源  
充ツル爲公債追加發行ニ關スル  
邦內ニ於テ募集シタル外國債ノ  
遇(政府提出)  
ニ關スル法律案(政府提出)

酒精及酒精含有飲料稅法中改正法律案

(政府提出)

麥酒稅法中改正法律案(政府提出)

大正九年法律第十二號中改正法律案(所得稅法ノ施行ニ關スル件)(政府提出)

支那事變特別稅法案(政府提出)

臨時利得稅法中改正法律案(政府提出)

臨時租稅措置法案(政府提出)

日滿國稅徵收事務共助法案(政府提出)

昭和十二年法律第八十四號中改正法律案(支那事變ニ關スル臨時軍事費支辨ノ爲

公債發行ニ關スル件)(政府提出)

關東局、朝鮮總督府、臺灣總督府及樺太

廳ノ各特別會計ニ於ケル租稅收入ノ一部

ニ相當スル金額等ヲ臨時軍事費特別會計

ニ繰入ルルコトニ關スル法律案(政府提出)

昭和十三年度一般會計歲出ノ財源ニ充ツ

ル爲公債追加發行ニ關スル法律案(政府提出)

○高橋委員長 是ヨリ間會致シマス——岡

本邦内ニ於テ募集シタル外國債ノ待遇ニ

關スル法律案(政府提出)

本實太郎君

○岡本委員 所得稅ノコトデ今少シク御尋致シタイト思ヒマス

(委員長退席、西村委員長代理著席)

配付シテ戴キマシタ資料ノ五號ヲ見マスト、

現行法ト改正法案トヲ對照シマス時ニ、第

三種所得稅ノ所デ十五萬圓及ビ二十萬圓ト

云フ所ガ著シク減ジテ居ルヤウデアリマス、

然ルニ五萬圓、三萬圓、二萬圓、一万五千

圓、一万圓ト云フ所モ少しハ減ジテ居リマ

スガ、其他ハ皆増ニナッテ居リマス、結果カ

ラ見ルト不釣合ノヤウニ見エマス、特ニ僅

カデモ七千圓以下ノ階級デ改正案ガ結局増

ト云フコトニナッテ居ル、是ハ何カ法案ヲ作

ル時ニ、計算上已ムヲ得ナカッタコトガア

ルカトハ思ヒマスガ、結果カラ見マスト形

デハ斯ウナッテ居ル、中堅ノ十五萬圓、二十

萬圓ト云フ所ガ減ッテ、却テ七千圓以下ガ

殖エテ居ツテ不釣合ノヤウニ見エマスガ、之

ニハ何カ事情ガアリマスカ

○大矢政府委員 現行法ハ基本稅額ニ階級

別ノ割増率ヲ以テ増徵致シテ居リマスル結

果、其階級ノ段階毎ニ稅ガ飛躍シテ增加シ

テ居リマシテ、甚ダ不自然ナ狀況ニナッテ

ノガ、此度ノ改正案デゴザイマス、其結果

ト致シマシテ部分的ニ見マスルト、今御話

ノヤウナ箇所ガ出テ來ルノデゴザイマスガ、

資料ニ依リマスルト總テガ增加シテ居ルヤ

ウニナッテ居リマスケレドモ、仔細ニ檢討シ

テ見マスルト必シモサウナッテ居ナイノデ

ゴザイマス、二三其例ニ付テ申上ゲマス、例ヘ

法ニ於テハ三十六圓七十二錢ノ稅額トナリ

マス、改正案ニ依リマスルト三十九圓五十

圓ノ稅額ニナッテ居ル、差引二圓七十八錢ノ

増ニナリマスガ、二千五圓ノ所得階級ノ者

ニ付テ檢討シテ見マスルト、現行稅額ガ四

十圓四錢、ソレカラ改正案ニ依ル稅額ガ三

十九圓七十七錢トナッテ、却ツテ二十七錢ノ

減ニナルノデゴザイマス、ソレカラ二千十

十錢、部分的改正ニ依ル稅額ガ四十圓五錢

トナッテ二十五錢ノ減ニナリマス、ソレカラ

三千圓ノ所デ申上ゲマスト、現行法ノ下ニ

於キマシテハ稅額ガ九十一圓七十八錢、改

正案ニ依ルト九十四圓五十錢、二圓七十二

錢ノ增ニナリマスガ、三千五圓ノ階級ニナリ

マスルト現行稅額ガ九十五圓六十四錢、部

分的改正ニ依ル稅額ガ九十四圓八十五錢、

差引七十九錢ノ減ニナリマス、三千二十圓

十六錢、改正稅額ガ九十五圓九十六圓六

七十六錢ノ減ニナリマス、ソレカラ一万圓

以下ノ階級ノ所ハ、資料ノ方ニ依リマスト

減ニナルコトニナッテ居リマス、一万圓ハ十

二圓三十四錢減ニナリマス、是ハ七千圓ヲ

超過シ一万圓以下ノ分ニ付キマシテゴザ

バ七千五圓ノ階級ハ現行稅額ハ四百十圓八

十一錢、改正稅額四百十五圓五錢ニナリマ

シテ却テ四圓二十四錢ノ増トナッテ居リマ

ス、斯ウ云フ風ニ致シマシテ細カク各階級

ノ内部ニ入ッテ檢討シテ行キマスルト、色

色増減ガアルノデゴザイマス、詰リ此資料

トシテ差上ゲタ表ハ、階級區分ノモノダケ

ヲ表ニシテゴザイマスガ、其前後ニ於テ現

行稅法ハ階級割増率ニ依ツテ非常ニ不自然

ナルコトニナッテ居リマスノデ、之ヲ所得金

額ニ對スル稅額ノ割合ニ依リマシテ足取表

ヲ拵ヘテ見マスルト、各階級毎ニギク

ト上ツテ居ツテ、非常ニ不自然ナモノニナッテ

居リマス、之ヲ此儘ニシテ置クノハドウシ

テモ適當デナイト思ヒマシテ、此度超過累

進稅率ニ依ツテ、此段階毎ノ區分ノ前後ニ於

キマシテモ、稅率ガ自然ニナグラカニ移

リ變ツテ行クヤウニ企圖シタノデアリマス、

總體ト致シマシテハ此前ニ申上ゲタ通り増

減ナイコトニナッテ居リマス、部分的ニ不自

然ナ所ヲ直シテ行カウト云フノガ根本ノ趣

旨デゴザイマス、サウ云フ次第デゴザイマシテ、必ズシモ七千圓以下ノ階級ノ所ハ全部増ニナツテ居ル、或ハ又十五万圓トカ、三十万圓邊リノ階級ガ悉クコンナ狀況ニ減ニナルト云フ譯デハゴザイマセヌ、要スルニ現行ノ割増率ニ依ツタ不自然ヲ、超過累進率ニ依ツテ自然ニナグラカナ稅率ニ直シテ行カウト云フ趣旨テ、改正案ヲ出シタ次第デゴザイマス

○岡本委員 御答ニ依リマシテ御趣旨ハ分リマシタ、如何ニモ表ノ形カラ見マスルト、下ニハ増シテ上ニ却ツテ減ルヤウニ見エマシタカラ御尋致シタノデアリマスガ、只今ノ御答デスト、現行法ガ度々ノ增徵改正等ニ依リマシテ甚ダ不公平ナモノデアル、ソレヲ足取表ヲ見テ今回ノ改正ノヤウニ適正ナモノニシタノダ、尙ホ五千圓トカ、七千圓トカ、一万圓トカ云フ分界點ニ於キマシテハ斯ウ云フ形ガ出ルガ、併シ尙ホ細カク一々見ルト必シモ下ニ増ニナツテ居ラナイ、斯ウ云フ御回答ヲ承リマシテ其點ハ分リマシタ

次ニ相續稅ニ於テモ同ジヤウナ疑問ガヤハリ出タノデス、此表ヲ見マスルト、資料ノ一番初メノ一號デス、此一號ノ表デ見マスルト、家督相續ノ第一種ノ三万圓ト云フ所

デハ僅カニ増ニナツテ居リマス、第三種ノ五万圓、十万圓ノ所ハ増ニナツテ居ルガ、其他ハ皆減ノ形ニナツテ居ル、斯ウ云フ風ニナツテ居ルノデス、第二種ノミハ十万圓以下ハ概ネ増デ、十五万圓以下ノ所ガ皆減ニナツテ居ル、殊ニ此第二種ノ如キガ甚ダ不公平ナヤウニ思ヒマス、即チ十万圓以下ノ下ノ方ノ相續財產ノ割合ニ少イ方ハ増ノ結果ガ出テ、十五万圓以下ガ減ニナツテ居ル、斯ウ云フヤウナコトデ、一寸見ルト甚ダ不公平ノヤウニ見エマスガ、是モ只今所得稅デ御説明ニナツタヤウナ意味ガ何カ含ンデ居ルノカ、或ハ他ニ相續ガ所得ト違ツタ關係ガアツテ、コンナ結果ガ出タノデスカ、御尋申上ダマス

當ナモノニアラウト云フ結論ニ達シタ次第  
デゴザイマス、此課稅價格ノ金額ノ刻ミ方  
モ成ベク現行法ニ依ッテ、餘リ變ナ端數ノ付  
ク端數ノ付カナイ、而モ下ノ方カラ段々上  
ノ方ニ上ルニ從ツテ、稅率ノ開キモ適度ニ致  
シタイト色々苦心致シマシテ、其結果斯ウ  
云フ表ヲ得タノデゴザイマスガ、之ヲ現行  
法ノ詰リ階級割増率ニ依ッテ計算シタ稅額  
ニ、出來ルダケ接近シヨウト致シマスルト、  
或ヘ此課稅價格ノ五千圓、一万圓、二万圓  
ト云フヤウナ刻ミ方ヲ更ニ端數ヲ付ケタモ  
ノデヤルトカ、或ヘ稅率ニ於テ端數ヲ付ケ  
ルトカ、若クハ課稅價格ノ上ルニ從ツテ稅率  
ノ差等ヲ設ケルノニ、下ノ方ニ寧ロ開キヲ  
多クシテ、上ノ方ニ開キヲ少クシナケレバ  
ナラヌト云フヤウナ、色々ナ不自然ナコト  
ヲシナケレバナラナイ、ソレハ即チ現行ノ  
増徵法其モノガ不自然ニナツテ居ルカラデ  
アル、斯ウ思ハレマシタノデ、此超過累進  
稅率ヲ採用スルニ當リマシテ、出來ルダケ現  
行法トノ開キヲ少クシヨウ、併シ度々申  
シマス通り、課稅價額ノ階段ノ刻ミ方、稅  
率ノ刻ミ方、課稅價格ノ段々多クナルニ從ツ  
テ、此稅率ノ開キモ適度ニ幅ヲ持タセタイ  
ト云フヤウナ點ヲ考慮致シタノデゴザイマ

シテ、決シテ或ル特別ノ階級ニ重クシヨウトカ輕クシヨウトカ云フ趣旨ハ毛頭ゴザイマセヌ  
○岡本委員 ヤハリ相續稅ノコトデスガ、只今申シタノハ家督相續ノコトデスガ、遺產相續ノ方ニ於キマスト此事ガ一層著シク出テ居ルヤウデス、即チ戴キマシタ第一號ノ表デ見テ、相續人ノ資格ニ依ツテ區別ニナッテ居ルヤウデアリマスガ、第一種ノ遺產相續ノ三万圓、四万圓、五万圓、斯ウ云フ所ハ増ニナッテ、七万圓以上ガ減、大キナ數字デハナイガ斯ウ云フ形ニナッテ居ル、第二種モ五万圓以下ガ増ニナッテ七万圓以上ガ減ト云フ形ノ數字ガ出テ居ル、第三種モ同様デ五万圓以下ガ増デ七万圓以上ガ減、斯ウ云フ數字ニナッテ、ドウモ之ニ依ルト今度ノ改正案ノ爲ニ下ノ方ガ増、上ノ方ガ減ニナッテ、下ノ方ニ少シ重クハナイカ、此改正案ニ依ツテ斯ウ云フ數字ノ結果ガ出テ、不公平デアルト思ヒマスガ、是ハ今ノ家督相續ヤ所得稅デ申サレタノト同ジ趣旨デ、此方モ斯ウ云フ風ニナッテ居ルノデアルカ、只今御答辯ニナリマシタノト同ジヤウナ趣旨デアルナラバ諄々申サレナライデモ宜シイノデスガ、何カ遺產相續ニ付テ特別ナ變ツタ理由ガアルト云フコトデアリマシタナラバ御答



マスガ、根本的改正ヲシナイ理由ニ付キマ

シテモ、客觀的ナ經濟情勢ト云フモノヲ主

トシテ考ヘタモノデアリマシテ、客觀的情

勢ガ安定シテ來テ稅制整理ヲ行フノニ適シ

タ此場合ニ於キマシテハ、ドウシテモヤラ

ナケレバナラスト云フ議會ノ約束ヲ以テノ

コトデアリマシテ、ソレヲ逃ゲヨウト云フ

考デナイトハ宜シク御諒承ヲ願ヒタイト

思ヒマス、要スルニ此増徵法ノ改正ト增稅

案ト云フモノトハ切離サレタル意味デアリ、

部分的改正ハ何處マデモ現在ノ增稅法案ノ

出ナイ前ノ形ヲ直スト云フ意味デゴザイマシ

テ、ソレト率聯ヲ持ッタモノデナイト云フコ

トハ御諒承ヲ願ヒタイト思ヒマス

○岡田委員 ソコデ先程申シタ通り、是ハ

マア意見デアリマシテ私ハサウ思ツテ居ル

ノデアリマスガ、今度ノ所得稅ト云フモノ

ハ比例稅トシテ居ルヤウデアリマスガ、要

スルニ所得稅ト云フモノハ比例稅デハナイ、

是ハ累進スルト云フコトガ根本義ニ今日ハ

ナッテ居ル、通リ相場デアル、又今度ハ急イ

デ增徵法ヲ出シテ置イテ比例稅ト云フモノ

ニ轉化シテ居ル、政府ハ來年ニナッテ根本的

改革ガ出來ナカッタ時ニハ、其稅法ヲ又變ヘ

テ來ルト云フコトニナルノデスカ、ソレニ

付テドウ云フ御考デアリマスカ、是ハ假定

論ニナリマスガ……

○太田政府委員 御質疑御尤ト存ジマス、

唯累進稅ノアル上ニ於テノ一率ノ增徵ニナッ

テ居リマスノデ、結果ニ於テ累進ノ程度ヲ

侵サナイ、斯ウ云フ意味ニ於テ、一率ノ增

徵トシテ居ル譯デアリマス、左様御諒承ヲ

願ヒタイト思ヒマス

○西村委員長代理 岡田君、モウ宜シウゴ

ザイマスカ

○岡田委員 終リマシタ

○岡本委員 酒ノ稅ニ付テ一二質問ヲ致シ

テ見タイト思ヒマス、戴キマシタ表ノ十一

號ヲ見マスルト、酒精ノ製造高ガ九年ト十

一年ハ著シク多イ、即チ八年度ガ五千二百

九十五石デアルノニ、九年度ガ一万五千九

石、十年度ガ六千二百三石ニ對シテ十一年

度ガ一万五千八百四十四石、多イ時ニハ少

ハ比例稅トシテ居ルヤウデアリマスガ、要

スルニ所得稅ト云フモノハ比例稅デハナイ、

是ハ累進スルト云フコトガ根本義ニ今日ハ

ナッテ居ル、通リ相場デアル、又今度ハ急イ

デ增徵法ヲ出シテ置イテ比例稅ト云フモノ

ニ轉化シテ居ル、政府ハ來年ニナッテ根本的

改革ガ出來ナカッタ時ニハ、其稅法ヲ又變ヘ

テ來ルト云フコトニナルノデスカ、ソレニ

付テドウ云フ御考デアリマスカ、是ハ假定

十一年ハ十三万二千九百八十四石ト云フ風

ニ激増ヲ示シテ居リマス、此酒精含有飲料

ノ方ハ、或ハ理研酒トカラ云フ種類ノモノガ

殖エテ來ル傾向ガアルノデハナイカ、割水

關係等デ割ガ良イカラデアリマスカ、外ニ

果實酒トカラ、ア、云フ含有飲料ノモノガ著

シク殖エテ來ルカラデアリマスカ、ドウ云

フヤウナコトデ斯ウ云フコトニナリマセウ

力

○松隈政府委員 只今ノ御尋ノ第一點ハ、

酒精ノ製造ニ關シマスルコトデゴザイマス

ガ、酒精ト申シマスルノハ、工業用酒精デ

ゴザイマシテ、内地ニ於キマスル工業用酒

精ハ、一年ノ需要ガ大體十五万石位ニナッテ

居ルノデゴザイマス、其中内地ニ於テ製造

致サレマスモノハ、多イ年ニ於テハ一割程

度ガ一万五千八百四十四石、多イ時ニハ少

イ時ノ三倍ニモナッテ居ルノデス、酒精ハ今

日專賣ニナッテ居ルカラ、過去ノコトヲ申シ

マシテモドウカト思ヒマスガ、何カ之ニハ

關係ハ、臺灣ノ酒精ノ出廻如何ト云フコト

ニ支配サレル譯デアリマス、ソレカラ段々

テ各種ノ工業ガ盛ニナリマシテ、傾向ト

トハ其他ノ酒精含有飲料デゴザイマシテ、

此方ハ種類ハ實ニ雜多デゴザイマス、「ウ

ノ酒精ニ對シテ極ク小部分デアリマスル關係上、臺灣ノ酒精ノ出廻時期ノ如何ニ依リ

マンテ、内地品ガ端境期等ニ於テ拂底ヲス

ル爲ニ、急ニ增産ヲスルト云フヤウナ關係

ガアリマスルノガ、茲ニ年度別ニ致シテ見

マスルト、酒精ノ製造ニ相當差ガ出ル、斯ウ

云フコトニナルノデアリマスガ、大勢ト致

シマシテハ、臺灣ノ酒精ヲ合セマシテ約十

五万石ノ酒精ガ年々工業用酒精ニ使ハレテ

居リマスノデ、其方カラ言ヘバ、需要ニ斯

ノ如キ著シイ變動ハナクテ、工業用酒精ノ

需給調節ガ行ハレテ居ル次第デゴザイマス、

ソレカラ次ハ酒精含有飲料ニ付テノ御質問

デゴザイマスガ、酒精含有飲料ハ、御承知

ノ通リ此中ノ大部分ハ所謂新清酒——理研

酒等ノ合成酒デゴザイマスルガ、是ハ偶ニ生

産條件ガ有利デアルトカ、或ハ稅法上モ少

シ有利ナコトモゴザイマスノデ、漸増ノ傾

向ニゴザイマス、昭和十一年度ニ於キマシ

テ十三万二千石ニナッテ居リマスガ、此中十

万石程度ノモノガ新清酒デゴザイマス、ア

イスキー」トカラ「ジン」「ベルモット」「キュラ

ソ」「ブランデー」ソレカラ更ニ保命酒、養

命酒、梅酒、梨酒等、其數ハ實ニ舉げ切レ

ナイ程澤山ゴザイマス、大體ノ傾向トシテ、先程申上ゲマシタヤウニ新清酒ガ増加ノ傾度ニ於キマシテハ、酒類製造業者ニ於キマシテ自治的統制ヲ致シテ、前年度ノ實蹟ヲ以テ昭和十二酒造年度ノ制限ノ標準ト致シタヤウナ關係モアリマシタノデ、新清酒業者ノ方モソレト歩調ヲ合セテ殖ヤスコトヲ差控ヘテ居リマス、其他ノ酒類ニ付キマシテハ、多少輸入方面ガ抑ヘラレテ來タ關係上、内地需要ヲ喚起シテ殖エテ居ルヤナウ事情モアルカト存ジマス

〔西村委員長代理退席、委員長著席〕  
○松隈政府委員　只今御尋ノ點デアリマス  
ガ、現行酒造税法ニ於キマシテヘ、清酒、  
濁酒、白酒、味淋、焼酎ニ付テハ法律デ定  
義ヲ掲ゲマシテ、極メテ厳格ニ解釋致シテ  
居リマス、其他ニ酒精ヲ含ミマシタ致醉飲  
料ト云フモノヘ、「ビール」ヲ除イテ、總テ  
酒精含有飲料ニ含マレルト云フコトニナッテ  
居リマス關係上、只今御話ノ清酒ニ加工致  
シマシテ、清酒ノ範圍ヲ逸脱致シタモノヘ、之  
現在ノ取扱ニ於キマシテヘ、酒精含有飲料  
ニ含メテ取扱ツテ居リマス

シテ居ル、餘リ極端ナ御取扱サレルノデ  
ハナイカト思フノデス、假ニ裁判デ三十万  
圓デ済ムトシタモノガ、税務署デハ七十二  
万圓ト云フ罰金ヲ、通告者カラ聞イテ直グ  
告發ニナツタト云フコトデスガ、斯ウ云フコ  
トハドウカ極端ニナラヌヤウニ願ヒタイト  
云フコトヲ附タリニ申上ゲテ置キマス、更  
ニ酒ノコトデ、戴キマシタ資料ノ十三號表  
デ見マスト、酒類ノ小賣ノ販賣業者ガ、昭和  
十一年カラ十二年ニ移リ變ル時ニ非常ニ減ツ  
テ居リマス、即チ昭和十一年ニ小賣ノ販賣  
業者ハ二万二千二百七十五人、十一年カラ  
十二年ニ移ル時ニハ一万一千四百三十七  
人、半分ニナツテ居ル、是ハドウモ市場ノ常  
識カラ見テ、半分ニマデ減ルト云フコトハ  
餘リ極端デハナイカ、卸賣ト小賣ノ合計カ  
ラ申シマシテモ、サウ十一年ノ合計ガ二万  
三千三百七十五人ニ對シテ、十二年ハ一万  
一千九百九人、半分ニナツテ居リマス、何ダ  
カ此表ヲ見マスト、是ハ販賣ノ許可制度デ  
モヤル前提トシテ、準備トシテ事實上ノ整  
理ヲナサルノデハナイカ、サフ云フコトノ事  
實モ聞キマセヌシ、資料カラ見テ半分ニナツ  
タト云フコトハ、ドウ云フヤウナ事情ガア  
リマスカ

十三號ト云フ資料ニ付テノ御尋デゴザイマシタガ、是ハ酒類販賣業者數増減表デゴザイマシテ、十一年ニ新規開業ヲ致シタ者ガ二万二千餘人、ソレカラ十二年ニ新規開業ヲ致シタ者ガ一万一千餘人、斯ウ云フコト通り、現在二十四万人程ゴザイマス、其中モ宇賀サンノ御尋ニ對シテ御答致シマシタ酒造稅法ノ適用ヲ受ケマスル酒類ノ販賣業者ハ二十三万一千人程ゴザイマス、ソレナラバ開業者自體ニ付テ見テモ、十一年ノ開業者ガ多クテ十二年ガ少イノデハナイカト申サレマセウガ、是ハ十一年ニ於キマシテ、丁度馬場藏相時代ノ稅法デ酒類販賣業者ノ免許制度ヲ布クコトニナッタ、其時ニ既ニ營業ヲ致シテ居リマス者ハヤハリ申告ダケデ免許ヲ受ケタモノト看做スト云フ規定ガゴザイマシタノデ、其稅法ガ發表サレマスト同時ニ、豫テ計畫中ノ者ハ此際新規開業ヲスルト云フヤウナコトガ働くキマシテ、十一年ニ於テハ幾ラカサウ云フ見越開業ト申シマスカ、サウ云フ點ノ影響ガアツタノデハナイカト察セラレルノデアリマス、十二年ニ於テハサウ云フコトモナカツタト見エマシテ、約半數ノ新規開業ガアツタ、斯ウ云フ次第デアリマス

○岡本委員 分リマシタ、更ニ庫出税ノコ  
トデ簡單ニ御伺致シタイ、一石五圓ノ庫出  
税ヲ今回新シク付ケラレルノデアリマスガ、  
此庫出税ノ結果、小規模ノ酒屋サンニダケ  
打撃ガ大キクテ、大キナ數量ヲ製造シテ居  
ル酒屋サンニハ寧ロ打撃ガ少イ、斯ウ云フ  
感ジヲ一寸持チマス、灘地方ノ大キナ酒造  
家ヲ見マスト、大キナ金融ヲ致シテ居ツテ  
餘リ庫出ト云フコトヲ急ガナイ、庫出ヲ急  
グノハ小釀造家デ、多クハ納税其他ノ金融  
ニ迫ラレテ已ムナク出スノデアル、先年庫  
出税ヲ設ケテ貰ヒタイト云フ請願ヲ大藏  
省ニ出サレタ時ニ、初メハ小サイ釀造業者  
ハサウシテ貰ッタ方ガ宜イト思ツテ居ッタ所  
ガ、段々研究シテ來ルト結局灘ノ大キナ酒  
屋サンニ都合ガ好クテ、吾々小釀造家ハ皆  
之ニ依ツテ倒レテシマフ、少クトモ其金利ダ  
ケデモ打撃ヲ餘計受ケナケレバナラヌ、斯  
様ナコトニナツタノデアリマス、庫出税實施  
ノ結果ハ、倒産ト迄行カズトモ、小釀造業  
者ノ爲ニ苦痛ガ大デ、大釀造業者ニハ苦痛  
ガ少イ、斯ウ云フ結果ガ出ルカト思ヒマス  
ガ、事實ハ如何デアリマスカ

スレバ四十五圓ノ稅金ガ課ヅテ居リマス、其上ニ今度五圓ノ稅金ガ課ルノデ、造石稅ト庫出稅トヲ合セマスト、清酒ノ稅金ノ負擔ハ五十圓ニナルノデアリマシテ、此五十圓ノ中ノ一割ニ相當シマス五圓分ガ庫出課稅ニ當ルノデアリマス、從來唱ヘラレマシタ庫出課稅ノ種々ノ問題ハ、全體ガ庫出課稅ニナル時ノ問題デゴザイマスガ、今度ハ僅ニ一割程度ノ庫出課稅ノ問題デアリマスカラ、從來ノ論點ハ餘程緩和サレテ考ヘラレテ參ツテ居ルト思ヒマス、ソレカラ庫出稅ガ大釀造家ニ有利デ、小釀造家ニ不利デハナイカト云フ御意見デアリマスガ、大體論、或ハ大體ノ傾向トシテハサウ云フヤウナ傾向モアルカト存ジマスガ、庫出ヲ早クスルカ否カト云フコトハ地方ニ依ヅテモ異リマシ、又各人ノ商賣ノ政策ニ依ヅテモ違ツテ居リマス、少シ大キク造ル者ハ常ニ遲ク出ストモ限リマセヌ、又小サク造ヅテ居リマス者デモ、其附近ノ需要ニ應ジタ地廻リ程度ノモノヲ造ヅテ居ルトスレバ、敢テ早出シスルト云フ譯デモアリマセヌ、寧口早出シラスル者ノ多クハ、私ノ考デハ中位ノ釀造

家ニアルノデハナイカト思フノデアリマス、  
是ハ其人ノ商賣ノ政策ニモ依ルコトデゴザ  
イマスノデ、其間利害ガ錯綜致シテ居リマ  
スケレドモ、先程モ申上ダマシタ通り、今  
回ハ全體ノ稅金ノ一割程度デゴザイマスカ  
ラシテ、比較的業者ニ與ヘル打擊ガ少クテ、  
此程度デアレバ業者ノ營業ニサシタル支障  
ナク、實行ガ出來ルノデハナイカト存ジテ  
居ルヤウナ次第デアリマス

部打切ッタノデハナイト云フコニシテ、文部大臣ニ對スル質疑ノ方ニ御讓リ致シマス  
○岡田委員 文部大臣ガ御忙シイ所ヲ無理ニ御出席ニナツテ、而モ十二万圓ノ問題デ金ハ少イガ、ソレガ爲ニ文部大臣ヲ輕ク思フノデハ決シテゴザイマセヌ、金ハ少イガ事柄ハ大キイト思ヒマス、ソレハ學生ノ運動競技ノ入場料ノコトデアリマス、是ハ無論入ル者カラ徵ルコトニナツテ居リマスカラ、學生ナリ主催者カラ直ニ徵ルト云フ立前デハアリマセヌ、是ハ學生ノ競技其他「アマチュア」ノ競技ニ付テデアリマスガ、主トシテ學生ノ方ニ付テ伺ヒマス、其催ス所ノ「スポーツ」カラ其際ニ金ヲ徵ル、是ハ累計僅ニ十二万圓デスカラ、國家ノ財政ニハ別ニ何モ關係ガナイノデアリマス、然ル所色々「スポーツ」界ノ人々カラ私ノ方ニ意見ヲ言ッテ來ル、是ハ私ガ申サナクテモ、文部大臣ニモハ御耳ニ入ッテ居ルコトト思フノデアリマスガ、今學生ノ體位ガ下ツタカラ之ヲ獎勵シナケレバナラスト云フ大キナ目的ガ眼前ニ横ハッテ居ル、成程學生ノ「スポンツ」ニ付テハ是ガ職業的ニ陷ルトカ、色々弊害ガアルトカ云フコトハアリマスカラ、

第六類第六號 臨時租稅增徵法中改正法律案外七件委員會議錄 第十七回

其ヤリ方ニ付テノ取締ノ改善ニ付テハ是ハ別問題ト致シテ、兎ニモ角ニモ日本ノ學生生徒ノ體位ヲ大イニ向上サセナケレバナラヌ、「スポーツ」ヲ大イニ獎勵シテ、國民的ノ「スポーツ」ニシナケレバナラスト云フ時ニ、僅カ十二万圓ノ金ヲ徵ランガ爲ニ、折角發達シテ行カウト云フ氣分ヲ殺グト云フコトハ、私ハ十二万圓位ニ代ヘラレヌコトデアルト思フ、成程大藏當局ノ理論カラ言フト、入場料ヲ取ルノダ、ソレハ何モ學生カラ取ルノデハナイ、主催者カラ取ルノデモナイノダ、此處ニ入ッテ來ル者カラ取ルノダト言フケレドモ、ソレハ「スポーツ」ノ心理狀態ヲ知ラザル議論デアリ、机上ノ議論デアルト私ハ思フ、文部大臣或ハ厚生大臣トシテ、國民ノ體位ノ向上ヲ圖ルト云フコトニナツテ居ル以上ハ、之ニハ十分御考ガアツテ然ルベキモノト思フノデアリマス、ソレデ政府カラソレヲ徵收サレルト云フヤウナ氣分ヲ起サセテハイカスト思フ、政府ニ金ガ入レバ、ソレヲ以テ彌ガ上ニモ「スポーツ」ノ獎勵ヲシタラ宜イ、政府ノ補助金、獎勵金ガアレバ、ソレヲ維持シ、若クハモット増ス位ノ氣分デ行クテ貰ヒタルトカ、或ハ本人カラ取ルノデハナイト云

フ議論デ以テ、之ヲ無理ニ取ルト云フコトハ、私ハ非常ニ遺憾ニ思フノデアリマス、今御答辯ヲ求メヌデモ宜イノデス、私ハ之ヲ削リタイト私一個ノ意見デハ思ツテ居ルノデス、其時ニ一ツ御反對ニナラヌヤウニ、尙ホ私ノ意見ガ通ルヤウニ御盡力ヲ願ヒタイ、此希望ヲ述べテ置キマス、無理ニ御答ヲ戴カヌデモ宜イノデスガ、是ダケ申上げテ置キマス

○木戸國務大臣 只今承ツテ置クダケナラ、ソレデ濟マセマスガ、其場合ニ賛成シロトデアリマス、併ナガラ斯ウ云フ非常ノ際ニ云フ御話デアリマスカラ、一應意見ヲ申上ゲマス、此問題ハ勿論金額ハ非常ニ少イノデアリマス、併ナガラ斯ウ云フ非常ノ際ニ當ツテ、運動競技ヲ致シマス場合ニ、有料デ入場者ヲ入レルヤウナ場合ニハ、ヤハリ國家ノサウ云ツタ方面へ課ケル稅ニ付テハ協力スルト云フコトガ、ヤハリ國民ノ精神ヲ揚ゲテ行ク所以デモアルト考ヘルノデアリマス、而シテ學校ノ運動會ナド云フヤウナト云フヤウナ氣分ヲ起サセテハイカスト思フ、政府ニ金ガ入レバ、ソレヲ以テ彌ガ上ニモ「スポーツ」ノ獎勵ヲシタラ宜イ、政府

イ影響ガアルヤウニ御話モアリマシタガ、ヤハリ之ニ依テ此非常時局ニ貢獻シテ行ク、尙ホ私ノ意見ガ通ルヤウニ御盡力ヲ願ヒタイ、此希望ヲ述べテ置キマス、無理ニ御答ヲ戴カヌデモ宜イノデスガ、是ダケ申上げテ置キマス

○岡田委員 サウナルト意見デアリマスカラ、伺ツテ置ク以外ニハナイノデスガ、唯併シ私ハ大局上考ヘテ貰フコトガ必要デアルト云フコトヲ申シタノデアリマス、僅カノ金デ以テ之ヲスルトカセヌトカ云フ問題デナク、學生ノ體位ノ改善ニ向ツテノ一ツノ大キナ問題ト思ヒマスカラ、尙ホ御再考ヲ促シテ置キマス

○堀内委員 一寸關聯事項ニ付テ——私ハ生葡萄ノ稅金ニ付テ一寸御伺致シタクト思ヒマス、今回新稅トシテ生葡萄ニ稅ヲ御課ケニナルヤウデアリマスガ、是モ洵ニ僅カナ稅デアリマス、殊ニ斯様ナ支那事變ノ餘リニ此葡萄酒ニ對スル課稅方法ガ苛酷ナ

ヤウニモ考ヘラレマスルシ、又實際納稅ノ實ヲ舉ゲ得ルカドウカト云フヤウナ懸念モアルノデアリマス、要スルニ實際ノ事情ヲ能ク御取調ニナラナクテ、斯ウ云フコトヲ御決定ニナツタノデハナイカト思フ 點ガアリマスルカラ、其點ニ付テ一應伺ツテ見タリ思ヒマス、生葡萄酒ト申シマスルト、アリマスガ、實ハ日本ニ於ケル葡萄酒ノ產地ハ、山梨縣ガ一番多イノデアリマシテ、アリマスガ、實ハ日本ニ於ケル葡萄酒ノ產地ハ、山梨縣ニ於テ葡萄酒ノ釀造ヲ始メタノハモウ三十年以前ノコトデアリマス、輸入ヲ防止スルト云フヤウナ考カラ、生葡萄酒ヲ山梨縣デ釀造シテ見ヨウデハナイカト云フコトデ、吾々モ其一人トシテ會社ヲ作ツテ釀造ヲ始メタコトガアル、所ガ日本ハ御承知ノ通リ、丁度葡萄ノ成熟期ニ雨ガ多ク、其結果葡萄ニ水分ガ多ク糖分ガ少イ爲ニ葡萄酒ニハ適シナイ、ソコデ一時獨逸人ナドヲ技師ニ招聘シテ、釀造シタコトモアルノデアリマスガ、ドウモ好結果ヲ齎サヌノデアリマシテ、今日マデ葡萄酒事業トシテハ、殆ド全部ガ失敗ニ終ツテ居ルヤウナ狀況デアリマス、併シソレデモ、葡萄酒ガ今幾ラカ出テ居ルデハナイカト云フコトデアリマスガ、成程日本全國ニ於テ二万石足ラズノモノガアルノデアリマシテ、其縣數ハ十縣

例ヲ申上ゲレバ、山梨縣ノ葡萄酒ノ產額ハ、  
ア一箇年ニ六、七千石造ルノデアリマスカラ、マ  
スト、祝村ト云フ所ハ全戸數五百戸デ、其中  
デ醸造戸數ハ三百八十五戸デアリマス、三百  
八十五戸ガ造ルノデアリマス、デアリマス  
カラ極ク僅カナ所ハ殆ド一斗、二斗ト云フ  
ヤウナモノガ多クテ、一石以上ト云フヤウ  
ナモノハ洵ニ少イ、勿論二三會社組織デ  
ヤツテ居ル醸造家モアリマシテ、數百石造ッ  
テ居ル所モアルノデアリマスガ、是ハ多ク  
ハ混成酒ノ原料ニナツテ居ルノデアリマス、  
近來事變以來外國カラ葡萄酒ノ輸入ガ杜絶  
致シテ、ソコデ甲州邊リノ生葡萄酒ト云フ  
モノガ、品物ハ惡イノデアリマスケレド  
モ、幾ラカ東京ニモ賣レテ用ヒラレテ居ル  
ノデアリマスガ、斯ウ云フ事實ガ生ズル前  
ヘ、生葡萄酒トシテ賣レルモノハ極ク少ク  
テ、大概混成酒ノ原料トスルカ、サモナケ  
レバ自家用トシテ銘々毎戸ニ造ッテ、ソレヲ  
家デ飲ンデ居ツタ、此家デ飲ンデ居ルト云  
フコトハ、農家ノ事情ヲ考ヘテ見マスト、  
洵ニ氣ノ毒ナ狀況デゴザイマシテ、日本酒  
ヲ買ツテ飲ムニハ金ガ要ル、ソコデ日本酒ヲ  
飲ム代リニ此葡萄酒ヲ飲ムノデアリマスケ

レドモ、事情ヲ聞イテ見ルト、日本酒ハ飲  
ハ惡イケレドモ、仕方ガナイ、農家ノ副業  
ルカラ、金ヲ出スト損失ニ歸スルカラ、惡  
イモノヲ飲ンデ居ルノダト云フ譯デ、人ノ  
集マル時デモ、ヤハリ葡萄ノ產地ニ行キマ  
スト葡萄酒ヲ飲ンデ居ル、是ハ贅澤デモ何  
デモナイ、濁酒以下デ、醉心地モ惡イノデ  
アリマスガ、サウ云フモノヲ代用ニ使ッテ  
居ルト云フヤウナ、洵ニ貧弱ナ狀況ニ在ルノ  
デアリマス、デアリマスカラ斯様ナ所カラ  
假ニ稅金ヲ取上ゲヨウト致シマシテモ、兎  
ニ角全國ニ二万石ニ満タナイ、一万八九千  
石ノモノデ、其中ニ會社組織トシテ混成酒  
ノ原料等ニシテ造ツテ居ルモノガ二三千石カ  
アルカモ知レマセヌガ、其他ノモノガ、六  
千戸以上ノ農家デ造ツテ居ルト云フヤウナ  
狀況デアリマシテ、少イノハ殆ド一斗トカ  
二斗、多クモ一石ヲ超エテ居ルモノハ極ク少  
イデアラウト思フヤウナ狀況デアリマス、デ  
アリマスカラ斯ウ云フモノニ課稅スルトシ  
マシテモ、稅額ハ極ク少クテ、徵稅費ニ非  
常ニ多額ヲ要スル譯ニモナリマスシ、又稅  
金ヲ取ラレルト云フコトニナリマスト、コ  
ンナコトハ廢メテシマフ者ガ多イダラウ、

葡萄デアルトカ、損傷ノ葡萄ナドヲ利用スル途モ絶エテシマヒマスト、賣物ニナラヌ劣等ノモノハズット減ツテシマフ、ソコデ吾々ノ考ヘテ居リマス所ハ、段々科學ノ進歩モアリマスカラ、今ノ所デハ葡萄酒ハ日本產トシテハ疎ナモノハ出來ナイノデアリマスガ、何トカ改良方法ヲ講ジテ、サウシテ外國カラノ輸入ヲ防止スル程度マデニ一ツ進メテ見タイト云フコトハ吾々モ考ヘマシテ、始終ソレハ獎勵シテ、色々ナ方法ヲ以テ今試験時代ニマダ居ル譯ナノデアリマス、少々惡イモノデモ外國カラノ輸入ヲ杜絕スルコトハセナケレバナラヌノデアリマスガ、今其途中ニアル此葡萄酒ニ稅金ヲ課ケテ、一石十五圓、實際祝村附近デ賣ッテ居リマス其價格ハ一石十五圓カ二十圓デアルノデアリマス、サウ云フヤウナモノニ、殆ド賣買値段ト同ジヤウナ多額ノ稅金ヲ課ケルト云フコトニナルト、只今申上ゲルヤウニ是ハ造石數モ何モズット減ツテシマフ、殊ニ斯様ナモノヲ庫出稅デ、製造場カラ出ス時ニ取ルト云フヤウナコトモ之ニ書イテアリマス

ガ、庫出しモ何モナイノデアリマス、農家ノ納屋ミタヤウナ所デ惡イ葡萄ヲ樽へ入レテ造ツテ居ルト云フ譯デ、製造場モ釀造場ナイモノカラ、少シヅツ出シテ來テハ飲ンデ居ルト云フヤウナ狀況ニアルノデアリマス、洵ニ幾ラ非常時局トハ言ヘドモ、甚ダ殘酷千萬ナモノデハナイカト思フノデアリマス、楮ナ祝村ノ狀況ニ付テ、他ノ村モ大體同ジヤウデアリマスカラ、村ノ經濟ノコトヲ御参考ニ申上ゲテ置キマスガ、山梨縣ノ祝村ハ彼此レ一千石バカリ釀造シテ居リマスガ、其祝村ノ村費ノ總計ハ二万圓デアル、二万圓ノ村費ヲ使ツテ居ル、併シ其中デ教育費ノ補助ヲ七千圓貰ヒマンテ、財政調整交付金ヲ五千圓貰ツテ居ル、サウ云フモノガ一万二千圓アッテ、村ノ負擔ガ八千圓、其八千圓ノ負擔デサヘモ中々苦シングデ居ルト云フヤウナ今狀況ニナツテ居リマス、ソコヘ千石造ツテ一万五千圓ノ稅金ヲ出スト云フコトハ、中々村ノ經濟ニ取ツテモヤリ切レナイノデアリマシテ、其爲ニ非常ニ村ガ困ル狀況ニナリマス、其他ノ村モ例ヲ舉ゲレバ大概同ジヤウナ狀態ニナツテ居ルノデアリマスカラ、是ハドウシテモ稅金ヲ取ラネバナラヌト云フナラバ、混成酒ノ原料ニナツテ居ルモノハ混成酒ノ原料トシテ出スノデ

アリマスカラ、商賣品ニ限ルトカ、或ハ何  
石以上ノモノトカ、何カソコニ分界ヲ設ケ  
テ、自分ガ家デ自家用ノ手造リニシテ、サ  
ウシテソレヲ濁酒代リニ飲ンデ居ルノダト  
云フヤウナ風ノモノヘ、是ハ稅金ヲ取ルト  
云フコトハ餘リニ苛酷ノヤウニ思フノデア  
リマスガ、大藏省ニ於キマシテヘ、之ニ稅  
金ヲ課ケルト云フコトハ、何カ葡萄酒ト云  
フ名前ガ立派ナモノデアツテ、昔カラ葡萄酒  
ト云フト高等ナ酒ノヤウニ考ヘテ居リマス  
ガ、又實際輸入葡萄酒ナドハ隨分高イモノ  
ガアルノデアリマスガ、全ク外國カラ輸入  
スル葡萄酒ト日本内地デ出來ル葡萄酒ト云  
フモノハ非常ニ違フノデアリマス、其邊ノ  
點ヲ御調査ニナンテ御決定ニナックデアリマ  
セウカ、一應之ヲ御伺致シテ置キタイト思  
ヒマス

石位ニアツタノニアリマスガ、近時漸次發展シテ參リマシテ、昭和九年度ニ於キマシテハ約一万三千石、昭和十年度ニ於テハ約一萬八千石、昭和十一年度ニ於テハ約一万九千石ト云フ風ニ段々造石高ガ殖エテ參ッタノデアリマス、ソレカラ其品質ノ方面カラ行キマシテモ漸次向上シテ參リマシテ、市販品ニ付テ見マシテモ、一石六十圓カラ七十圓、八十圓程度ノモノガ相當アルヤウデゴザイマス、尤モ極ク小規模ニ自家用的ニ造ッテ居ルモノモ、製造人員トシテヘ可ナリアルヤウデゴザイマス、純粹ニ自家用トシテ製造シテ居ルモノハ大抵一斗内外ト云フ所デゴザイマシテ、今縷々御述ベニナリマシタ山梨縣下ニ於キマシテモ、昭和十一年度ニ付テ調査シテ見マスルト、五斗未滿數ニ於テ四十八石、先ヅ一戸デ一斗トカ二斗ト云フ程度デゴザイマス、併シ山梨縣下ニ於キマシテモ、多イ者ハ一石以上モ造ッテ居ルノデゴザイマス、中ニハ百石以上二百石、或ハ四百石、四百石以上ト云フヤウナ製造ラシテ居ル者モゴザイマス、品質モ先程申上ゲタ通り大分優良ナモノガ出テ居リマシテ、地方ノ清酒ト比ベテ敢テ劣ル所ハナイ、寧ロソレヨリモ高價ナモノモ相當ア

ルノデゴザイマス、此正確ナ調査ハ出來テ  
居リマセヌケレドモ、大體山梨縣下ニ於キ  
マシテモ、葡萄ノ生産額ノ約四割程度ハ、  
此生葡萄酒ノ生産原料ニ供サレルノデゴザ  
イマシテ、御話ノ落チ零レト云フヤウナモ  
ノモ利用シテ造ッテ居ル者モアルニハアリ  
マスケレドモ、精選シタ材料ヲ以テ製造シ  
テ居ル者モ相當ゴザイマス、ソレデ結局問  
題ヘ、自家用ニ供スルモノニ迄モ課税スル  
ノハドウカト云フ問題ニナルカト存ジマス、  
併シ先程申上ゲマシタ通り、自家用ニ供ス  
ルモノハ大抵一斗内外デゴザイマシテ、稅  
額カラ言ヒマシテモ一圓五十錢トカ二圓程  
度カト存ジマス、ズット前ニ濁酒ノ自家用ガ  
免許サレテ居リマシタ當時ニ於キマシテモ、  
最低ハ二圓、最高ハ八圓程度ノ說ヲ納メテ  
居タノデゴザイマス、今日自家用濁酒ノ製造  
ト云フコトハ免許サレテ居リマセヌガ、  
明治三十年ノ初メ頃ノコトデゴザイマス、  
ソレカラ考ヘマシテモ、此自家用生葡萄酒  
ノ製造者ニ對シテ一圓、二圓程度ノ課稅ハ、  
此際トシテハ敢テサウ不當ノモノトハ言ハ  
レナイカト存ジマス、所謂馬場稅制ニ於キ  
マシテハ、一石三十圓デ課稅シヨウト云フ  
コトニナツテ居タノデゴザイマスガ、此度臨  
時稅トシテ課稅致シマスルニ當リマシテモ、

相當調査ヲシテ見タノデゴザイマスガ、今  
仰セノヤウナ點モ相當考慮シナケレバナラ  
ヌ點ガアルト存ジマシテ、稅率ハ減ジタヤ  
ウナ次第デゴザイマシテ、此點ニ於キマシ  
テハ馬場稅制ニ比べテ餘程負擔ガ緩和サレ  
テ居ルト存ジマス

カ云フ問題ニモナルヤウナコトデ、脱税トカ何ト  
瑣ナコトデアリマシテ、殊ニ方々ノ家ヘ一々  
行シテ取締モ致サナケレバナラヌ、殆ド徵  
稅費用ニ多ク取ラレテシマフヤウナコトニ  
ナリハシナイカト思ヒマス、馬場稅制ノ時  
ニ三十圓ト決マツテ居ツタカドウカ知リマセ  
ヌガ、先刻モ申ス通り今ノヤウナ輸入ガ杜  
絶シテ居ル時代デアリマスカラ、何カ改良  
シ得ルヤウナ方法ガ出来テ、一方デ獎勵ス  
ルト云フコトニナツカラ、モノニナラヌ限  
リモナイノデアリマス、今斯ウ云フヤウナ  
コトヲシテ、銘々家庭ニ於テ造ルコトハ止  
メテシマフコトニナリマスト、ソレダケ農  
家ノ副業ヲ失ハセル結果ニナリマス、殊ニ  
段々今ノ御話ノ通り、造石稅ガ増シテ來タ  
ノデハナイカト仰シヤルガ、ソレハ増ス譯  
デアリマス、葡萄ノ產額ガ段々増シテ來テ  
居リマス、段々増シテ來テ居リマスカラ、  
其中カラ不良ノ葡萄ヲ酒ニ造ルトカ、葡萄  
ガ餘ツタ時ニ造ルト云フコトガアリマス、  
レドモ、中ニハスウ云フコトモアリマス、  
葡萄ノ產地カラ葡萄ヲドン／＼東京ノ青物  
市場ニ送ルノデアリマス、大體初メ値段ヲ  
決メズニドン／＼送ル、サウスルト葡萄ノ  
荷ガ著イテ大分溜ツタヤウナ時ニ仕切ヲ出

シテ來ルノデアリマスガ、其仕切ガ時ニ依ルト非常ニ安いコトガアルノデ、葡萄ヲ東京ニ送ルコトガ出來ナイト云フヤウナコトカラ、又之ヲ他ノ遠方ノ土地ニ送ラウトルト、葡萄ト云フモノハア、云フ水分ガ多イ物ダカラ、遠方ニハ中々送レナイ、ソコデ仕方ガナク東京ニ出ス譯ニ行カヌカラ、葡萄酒ニ造ツテシマヘト云フコトデ造ル場合ガ多イノデアリマスカラ、葡萄ノ產額ガ殖エルト同時ニ、葡萄酒ト云フモノ幾分ヅ、カラ是ハ儲カルカラ殖エルトカ、利益ガアルカラ殖エルト云フモノデナクテ、已ムヲ得ズ葡萄酒ニ造ルト云フ結果デサウ云フコトニオツテ來ルノデアリマスガ、今此モノニ課稅シテ、徒ニ費用バカリ掛ツテ實際國庫ノ收入ト云フモノハ極メテ少クナツテ、サウシテ一方ハ農家ノ副業ヲ抑ヘルト云フヤウナコトニモナルシ、其結果ハ頗ル工合ノ惡イモノニナリハシナイカト思フノデアリマス、併シ御提案ニナリマシタカラ、又委員諸君ノ御意見モアラウト思ツテ居リマスガ、何トカ是ハ御考ヲ願ハナイトイクマイトイヒマス、併シ是レ以上ハ意見ニナリマスカラ、私ノ質問ハ是デ打切ツテ置キマス

大部分ヲ占メテ居ルト云フ御話デゴザイマスガ、山梨縣下ニ付テ昭和十年度ノ實績ヲ調査シテ見ルト、五斗未滿ノモノハ百九十九人位ノモノデゴザイマシテ、大部分ハ五百石内外、或ハソレ以上ト云フ風ニナッテ居ルノデゴザイマス、ソレカラ製造者ノ數ガ非常ニ多イカラ、是ガ取締ノ爲ニ非常ナ手數ヲ要スルダラウ、又費用ヲ要スルダラウト云フ御話デゴザイマスガ、此法律ヲ執行スルニ當リマシテハ、能ク此葡萄栽培者ト申シマスカ、葡萄酒製造業者ト申シマスカ、其組合ノ方トモ連絡協調ヲ保チマシテ、成ベク煩瑣ナ手數ハ掛ケナイデヤッテ行キタイト存ジテ居リマス、物品稅ハ本人ノ申告ニ依ツテ課稅スルノガ立前デゴザイマシテ、尙ホ組合ノ方トモ十分連絡ヲ取リマスレバ、ソレ等ノ手數ト云フ點モ餘程省ケルカト思ヒマス、執行ニ當リマシテハ御心配ノヤウナ點ヲ十分考慮シテ、遺憾ノナイヤニヤツテ行キタイト思ヒマス

サンカラ酒ニ關スル質問ガアリマスカラ、  
午後ニナサツタラドウデスカ  
○山川委員 短ウゴザイマスカラ——私ヨ  
リ申上ゲタイト思ツタコトハ、大部分ハ既ニ  
詳細御話ニナリマシタガ、私ハ一寸御尋申  
上ゲタイノハ、抑、葡萄酒ノ酒ト云フ名前ガ  
禍ヲシテ居ル、是ハ昔カラ葡萄酒ト言ツテ  
居ツタラ宜カツタデアラウト思フ、ソレヲ葡  
萄酒ナント云フ名前ヲ附ケタカラ、直チニ  
外國カラ入ッテ來ル五圓、十圓ト云フ酒ヲ聯  
想スルノデ、一方デ日本酒ニ稅金ヲ課ケ、  
又麥酒ニ稅金ヲ課ケテ置イテ、コンナ結構  
ナモノニ稅金ヲ漏ラシテ居ルコトハ租稅ノ  
均衡上イカヌト云フコトデ、斯ウ云フモノ  
ヲ探サレタノデアラウト思フ、ソレナラ甘  
酒ト云フモノモ、酒ト云フ名前ガ附イテ居  
ルカラヤハリ稅ヲ課ケナケレバナラヌ、斯  
ウ云フコトニナッテ來ハセヌカト思フ、ソコ  
デソソンナコトハ宜シイガ、大體日本ニハ立  
派ナ葡萄酒ガ出來ナイ、私ハ奈良縣ヲ代表  
シテ申上ゲタイガ、關西ノ方デハ非常ニ此  
課稅ニ付テハ苦シシニ居ル、昭和九年ノ大  
風ニスカカリ葡萄酒ノ棚ヲ捲キ上ゲラレテシ  
マツテ大破ヲシテ居ル、搗テ、加ヘテ困ツテ  
居ル際ニ、此上又葡萄酒ニ稅金ヲ課ケラレ  
ルト云フコトニナリマシタラ、折角少シ芽

ガ出掛ケテ居ル所ノ葡萄ヲ、又風デ棚カラ  
引抜イタヤウナコトニナルト思フ、ソコデ  
今大矢サンノ御答辯ヲ承ッテ居リマスノニ、  
百石モ造ツテ居ル者ガアル、三百石モ造ツテ  
居ル者ガアル、其一番大キナモノヲ見付ケ  
出シテ御話ニナリマシタガ、大體葡萄酒ト  
云フモノガ日本デ發達シテ、良イ葡萄酒ガ  
出來テ、外國ノ輸入品ヲ防イダラ惡イノデス  
カ、物ガ發達シテカラ稅金ヲ課ケル、出來  
ルマデハ知ラヌ振リヲシテ、ソレヲ發達  
サセヨウ、斯ウ云フ風ニ大藏省ハ思ウテ貰  
ハナケレバナラスト考ヘル、農家ノ副業ト  
シテ沟ニ結構ナモノガ出來掛けテ居ル、  
之ヲ若シ放ツテ置イテ、自然ノ間ニ發達シ  
テ、日本ニモ外國ニ負ケナイヤウナ葡萄  
達シタモノダラウト私ハ考ヘルナケレバナラ  
云フ程度ニナツテ來タ、ソレデ甲州邊リデ固マツ  
テ植栽シテ居ル者、其價格維持ノ爲ニ酒ニ  
變ヘテ、此葡萄ノ經濟ヲ守ラナケレバナラ  
スガ、自然ニサウ云フコトニ依ツテ此事業ガ發  
達シタモノダラウト私ハ考ヘルノデアリマ  
キマシテ、意見ニナツテ相濟ミマセヌガ、此  
課稅ハ斯業ヲ壞滅シ、多年不況ニ喘グ所ノ  
農村ヲ益危地ニ、或ル一部分デハアリマ  
スガ、陷レルモノト思ツテ居リマス、殊ニ關  
西方面デハ昭和九年ニ風害ヲ受ケテ葡萄棚  
ヲ一切吹上ゲラレ、根ヲ引抜カレタノデ、其  
復舊ニ孜々營々トシテ居ル、此時ニ、此十  
五圓ノ課稅ハ全ク斯業ヲ壞滅セシムル原因  
トナリハシナイカト憂フルモノデアリマス、  
是ハ御答辯ニハ及ビマセヌ、一ツサウ云フ  
意味ノコトヲ、吾々委員ノ一人トシテ思ツテ  
居ルト云フコトヲ御承知願ヒマシタラ結構  
デゴザイマス、是デ私ノ質疑ハ打切リマ

ノ植物デアル、之ヲ如何ニシテ防ガウカト  
ニ蒲萄ガ出來ルヤウニナツタノデアリマス、  
日本ハ大體猿ミタイナモノデ眞似ガ上手デ、  
コツチニモ日本國中ニ蒲萄ヲ拵ヘ掛ケタラ、  
丁度葡萄ノ價格ハ只今ハ昔ノ五分一ノ價格  
ニナツテシマッタ、殊ド實費ニ足リナイ、自  
ラ、是非斯ウ云フモノニハ稅金ヲ課ケナイ  
モノガ芽ヲ吹キ掛ケテ居ルノデアリマスカ  
ラ、是非斯ウ云フモノニハ稅金ヲ課ケナイ  
ノデアリマス、今農家ノ副業トシテ大切ナ  
モノガ芽ヲ吹キ掛ケテ居ルノデアリマスカ  
ラ、是ナツテシマッタ、殊ド實費ニ足リナイ、自  
ラマデハ知ラヌ振リヲシテ、ソレヲ發達  
シテ沟ニ結構ナモノガ出來掛けテ居ル、  
之ヲ若シ放ツテ置イテ、自然ノ間ニ發達シ  
テ、日本ニモ外國ニ負ケナイヤウナ葡萄  
達シタモノダラウト私ハ考ヘルナケレバナラ  
云フ程度ニナツテ來タ、ソレデ甲州邊リデ固マツ  
テ植栽シテ居ル者、其價格維持ノ爲ニ酒ニ  
變ヘテ、此葡萄ノ經濟ヲ守ラナケレバナラ  
スガ、自然ニサウ云フコトニ依ツテ此事業ガ發  
達シタモノダラウト私ハ考ヘルノデアリマ  
キマシテ、意見ニナツテ相濟ミマセヌガ、此  
課稅ハ斯業ヲ壞滅シ、多年不況ニ喘グ所ノ  
農村ヲ益危地ニ、或ル一部分デハアリマ  
スガ、陷レルモノト思ツテ居リマス、殊ニ關  
西方面デハ昭和九年ニ風害ヲ受ケテ葡萄棚  
ヲ一切吹上ゲラレ、根ヲ引抜カレタノデ、其  
復舊ニ孜々營々トシテ居ル、此時ニ、此十  
五圓ノ課稅ハ全ク斯業ヲ壞滅セシムル原因  
トナリハシナイカト憂フルモノデアリマス、  
是ハ御答辯ニハ及ビマセヌ、一ツサウ云フ  
意味ノコトヲ、吾々委員ノ一人トシテ思ツテ  
居ルト云フコトヲ御承知願ヒマシタラ結構  
デゴザイマス、是デ私ノ質疑ハ打切リマ

モ持ツテ來テ吳レタコトガアリマスガ、味ガ  
惡クテ迎モソンナモノヲ飲ンデ喜ンデ居ル  
コトハ出來ナイ、滿足ノ出來ナイ味デアリ  
マスカラ、凡ソ大同小異、サウ云フモノヲ  
自家用トシテ造ツテ居ルト云フコトヲ、之ニ  
依ツテ示サレタノデハナイカ知ラント思フ  
ノデアリマス、今農家ノ副業トシテ大切ナ  
モノガ芽ヲ吹キ掛ケテ居ルノデアリマスカ  
ラ、是ナツテシマッタ、殊ド實費ニ足リナイ、自  
ラマデハ知ラヌ振リヲシテ、ソレヲ發達  
シテ沟ニ結構ナモノガ出來掛けテ居ル、  
之ヲ若シ放ツテ置イテ、自然ノ間ニ發達シ  
テ、日本ニモ外國ニ負ケナイヤウナ葡萄  
達シタモノダラウト私ハ考ヘルナケレバナラ  
云フ程度ニナツテ來タ、ソレデ甲州邊リデ固マツ  
テ植栽シテ居ル者、其價格維持ノ爲ニ酒ニ  
變ヘテ、此葡萄ノ經濟ヲ守ラナケレバナラ  
スガ、自然ニサウ云フコトニ依ツテ此事業ガ發  
達シタモノダラウト私ハ考ヘルノデアリマ  
キマシテ、意見ニナツテ相濟ミマセヌガ、此  
課稅ハ斯業ヲ壞滅シ、多年不況ニ喘グ所ノ  
農村ヲ益危地ニ、或ル一部分デハアリマ  
スガ、陷レルモノト思ツテ居リマス、殊ニ關  
西方面デハ昭和九年ニ風害ヲ受ケテ葡萄棚  
ヲ一切吹上ゲラレ、根ヲ引抜カレタノデ、其  
復舊ニ孜々營々トシテ居ル、此時ニ、此十  
五圓ノ課稅ハ全ク斯業ヲ壞滅セシムル原因  
トナリハシナイカト憂フルモノデアリマス、  
是ハ御答辯ニハ及ビマセヌ、一ツサウ云フ  
意味ノコトヲ、吾々委員ノ一人トシテ思ツテ  
居ルト云フコトヲ御承知願ヒマシタラ結構  
デゴザイマス、是デ私ノ質疑ハ打切リマ

ス

○高橋委員長 山川君ノ御質疑ハ至極御尤

デアルト思ヒマスガ、多岐ニ瓦リマシテ御置キタイト思ヒマス、山川君ノ御質問ノ中ニ、葡萄液ト同ジヤウナモノダト仰セニナツタノハ、是ハ一寸言過ギダト思ヒマス、葡萄液ニハ課稅ニナツテ居リマセヌ、是ハ「アルコール」ノ分量ガ幾分カ入ッタ程度ノモノハ、稅法デ見逃スコトニナツテ居ルト吾々ハ承知シテ居リマスカラ、ソレハ葡萄液トハ違フ、葡萄酒ハ相當ノ「アルコール」分ヲ含ンデ居ル、但シ我國ノ葡萄ハ、葡萄酒專用ノ葡萄ヲ作ツテ居ル所ガ少イノデアリマス、甲州等ニ於キマシテハ漸次サウ云フ傾向ハアリマスケレドモ、堀内君ノ仰セニナツタ通リノ食用葡萄ノ廢物、或ハ賣レ残リト醸造家ガ、其地方ニ適スル或種ノ食用ニモ向キ、醸造用ニモ向クト云フヤウナ種類ヲ多少作ツテ居ラレル所ガアル程度デアラウト思ヒマス、ソレデ葡萄酒ヲ完全ニスル爲ニハ、ドウシテモ佛蘭西ニアル如ク、或ハ「ライン」地方ニアルヤウナ、葡萄酒醸造専用種ノ「ピイノ」トカ「メガ」トカ云フモノヲ漸次作ツテ行カナケレバナラヌダラウト私共ハ

考へテ居ルノデアリマス、サウスルニハ技術ガモウ少シ一般的ニ進歩シテ行カナケレバナラヌ、余程獎勵モ指導モ更ニ進ンデ行カナケレバナラヌ、ト云フヤウナ經驗ヲ持タシメタト云フコトハ、斯業ニハ非常ニ結構ナコトグラウト思フ、堀内君モ山川君モ力説サレタヤウニ、漸ク出來テ來タ芽ヲ摘ムト云フコトハ非常ニ國策トシテ採ラザル所デハナイカ、ソレデ僅カノ稅金ヲ——二十五六万圓ニモナリマスカ、此様ナ稅金ヲ取ル爲ニ非常ナ手數ヲ掛ケテ、サウシテ折角發達シ掛ケタ葡萄酒釀造業ト云フモノヲ、此處デ水ヲブッ掛けテシマフト云フコトハ非常ニ面白クナイコトダラウ、而シテ食用葡萄ノ栽培ト云フモノハ一部ノ溫室葡萄、一部ノ特殊ノ葡萄栽培地ヲ除イテハ、全部農家ガ非常ナ損失ヲシテ居ルノデアリマス、ソレハ我國ノ葡萄栽培ト云フモノハ非常ニ幼稚デアルト共ニ、學者ガ非常ニ研究ガ足ラナイノデアリマス、ソレデ病蟲害ニ對シテノ施設ト云フモノハ國ヲ培ヲシテ居ル農家ハ一進一退デ殊ニ甲州ナドハ最モ苦シニ居ル所デアリマス、サウ云

フ譯デアリマスカラ、是ハドチラカラ考ヘ  
テモ、之ニ從事シテ居ル人ハ國家トシテ擁  
護シナケレバナラヌ立場デアルノデス、此  
場合農家ガ副業トシテヤツテ居ル者ノ多イ  
生葡萄酒ニ對シテ課稅ヲスルト云フコトハ、  
國策トシテモ非常ニ面白クナイコトデアル  
ノデハナイカ、斯ウ考ヘラレルノデス、堀  
内君ノ御趣旨モ山川君ノ御趣旨モ、此邊ニ  
アルノグラウト思フノデス、之ニ付テ、當  
局ノ御意見ヲ承ルコトガ出來レバ幸ト思ヒ  
マス

同日ニ見ル譯ニハ述モイカヌト思ヒマス、ソレヲ同様ニシテ課稅シナケレバナラヌトシテ、此協定ガ變更サレナイ限りハ輸入關稅ヲ高メル譯ニハ行カナイト云フ點モゴザイマセウシ、又通商貿易ノ關係ニ於キマシテ、多少求償貿易ト云フ點ニモ關聯致ス所モゴザイマス、此際輸入葡萄酒ニ對シテ、關稅ヲ増加スルト云フコトハ困難ナ事情ニアルノデゴザイマス、併ナガラ此物品稅トシテノ課稅ハ、國內ノ葡萄酒ト同ジニ、輸入葡萄酒ニモ課稅シ得ル譯ニアリマス、是等ノ點ニ於キマシテ、決シテ輸入葡萄酒自體ヲ優遇スル譯デハゴザイマセヌ、ソレカラ葡萄酒ハ實際ハ葡萄酒ト幾ラモ違ハナイノデヤナイカト云フ御話デゴザイマスケレドモ、是ハ大體現在市場ニ出テ居リマス葡萄酒ニハ、酒精分ガ十二度内外ゴザイマス、相當酒精的ノ要素ガアルノデゴザイマス、單純ナ葡萄酒ト同視スル譯ニハ勿論イカナイト思ヒマス、色々今マデノ發達ノ過程、將來ノコトニ付キマシテモ御話ガゴザイマシタ、サウ云フ點モ十分考慮致シマシテ、先程申上ゲマシタ通り、馬場稅制ノ際ハ一



○松隈政府委員　昭和十二酒造年度ノ酒類  
生産ノ制限ヲ致スニ當リマシテ、昭和十一  
酒造年度ノ實蹟ヲ基礎ニ致シテ制限致シマ  
シタノハ、先程モ申シマシタ通り法律ガ改  
制ヲ爲シ得ルト云フコトニナツタノガ昨年ノ  
正ニナリマシテ、酒造組合ニ於テ營業ノ統  
争ヲ避ケテ、オ互ニ商賣ヲ續ケテ行ケルヤ  
ウナ狀態ニナルト認メラレタノデゴザイマ  
ス、自治的統制ヲシタ後ト、シナカツタ場合  
トヲ考ヘマシテ、自治的統制ヲ行ッタガ爲  
ニ、特ニ大釀造家ガソレヲ利用シテ小釀造  
家ヲ壓迫シテ、之ヲ破滅ニ導クト云フ風ニ  
ハ考ヘラレナイ次第アリマス

○板谷委員　成ベク御答辯ハ簡單明瞭ニ御  
願シタイノデスガ、大體此自治統制ヲ、昨  
年ノ造石高四百七十八万七千石ヲ標準トシ  
テ限定セラレタト云フノハドウ云フ譯デア  
ルカト云フコトト、ソレカラ最近ニ於テ酒  
ガ非常ニ不足ヲ告ゲテ居ルト云フヤウナ關  
係カラ、一石二十圓前後デ權利ノ賣買ガ行  
ハレテ居ルト云フコトヲ御承知デアリマス  
カ

ス、十月一日以降法律ガ效力ヲ發生シマシ  
タカラ、十月一日以降ニ於キマシテ會合ヲ  
開イテ生産ノ制限ヲ協定致シタノデアリマ  
スガ、丁度其時ニ於テ、モウ十二酒造年度  
ノ製造ガ始マッテ居ッタ、ソコデ色々ノ議論  
ヲ致シマシテ紛糾シマテ居リマスト、十二酒  
造年度ノ生産制限ガ間ニ合ハナイ、ソコデ  
十二酒造年度トシテハ已ムヲ得ズ前年ノ實  
蹟ニ依ラザルヲ得ナカッタ、是ナラバ一應恨  
ミツコガナイ、ソレヲ一々或ル所ハ伸バシ、或  
ル所ハ縮メルト云フヤウナコトヲシテ、議  
論ガ紛糾シマスルト、折角ノ自治統制ヲ致  
ス最初ニ於テ蹟キガ起シテ 巧ク行カナイト  
云フノデ、互讓ノ精神ヲ以テ、昨年ハ兎ニ  
角前年ノ實蹟デ自治統制デヤラウ、之ヲヤ  
ル方ガヤラザルニ優ルト思フカラ、一應前  
年ノ實蹟デ行カウ、而モ其場合ニ於テハ、  
小釀造家ニ無理ノ行カナイヤウナ考慮モ、  
或ル點ニ於テハ拂ハレテ居ルト思フノデゴ  
ザイマスガ、サウ云フコトニ依シテ出發シテ  
行キマシタ、併シ是カラ後ニ常ニ前年ノ實  
蹟デ行クト云フヤウナコトガ續ケラレルト  
ハ私ハ考ヘテ居リマセヌ、ソレカラ酒ニ付  
テ權利ガ發生シテ居ルト云フヤウナ御尋デ  
ゴザイマスガ、ソレハ一部ニハサウ云フヤ  
ウナ事實モアルコトハ承知シテ居リマス

○板谷委員 其権利ノ賣買ト云フノハ一部  
デハアリマセヌ、或ハ北海道ノ者ガ内地ニ  
來テ買フ、内地ノ者ガ北海道ノ権利ヲ買フ、  
是ガ相當ニ行ハレテ居ルノデアリマス、此  
権利ノ賣買ガ行ハレテ居ルト云フコトハ、  
要スルニ需要供給ノ關係ノ上ニ於テ酒ガ足  
リナイ、現ニ北海道アタリハ、昨年島外力  
ラ凡ソ三万石輸入ガアツタノデアリマスガ、  
二万石以上モ足リナイ、五万石足リナイト  
思フ、デアルカラ今御話スルヤウニ、繰返  
シテ申上ゲルヤウデアルガ、中央ノ所謂幹  
部ト稱スル大釀造家ノ一種ノ特權トシテ、  
斯ウ云フ自治統制ヲ御認メニナルト云フコ  
トニナレバ、中小ノ酒屋ヲ段々壓迫シテ、  
將來伸ビル力ガナクナリハシナイカ、我國  
ノ人口ハ年々歲々百万人近ク殖エテ居ル、  
隨テ酒ノ需要ガ昭和四年度ニ於テハ殆ド最  
低デアツク、ソレカラ段々是ガ增加シテ居ル  
傾向ニナッテ居ル、デアルカラ官僚統制ガ非  
常ニ弊害モアルガ、併シ一面ニ於テ自治統  
制ガ特權ニナッテ、隨テ横暴ニ流レテ、御承  
知ノ通リ本年一月ニハ酒ノ値段ヲ上げテ居  
ル、酒ガ足リナイカラ自然サウ云フ結果ニ  
ナル、自由競争デ共倒レト云フコトモ或ル  
程度マデ防ガナケレバナラヌガ、兎ニ角需  
要ニ満ツル供給ヲ圖ルダケノ御考慮ニナラ

ナケレバナラヌト思フノデアリマス、自治統制ト云フコトデアルカラ、中央ノ所謂聯合會ト云フモノハ御承知ノ通り殆ド一万石前後造ツテ居ル、ソレガ大原因トナツデ、謂ハゞ勝手ナコトヲヤツテ居ル、地方ノ酒造組合ノ意見ナドヘ用ヒラレナイヤウナ結果ニナツテ居ルノデアリマスガ、今御話ニ依ルト將來必シモ之ヲ守ルト云フ意思デハナイト云フコトデアリマスガ、政府ガ自作統制ト答申ヲ俟タズシテ、現在日本ノ酒ノ需要ガドレ位アルト云フヤウナ目標ヲ立テテ、之ニ對スル適當ナ何等カ命令デモ——命令ト言ヘバ語弊ガアルカモ知レマセヌガ、御發シニナル御考ハアリマセヌカ、酒造税ハ言フ迄モナク財政窮乏ノ際ニ於テハ出來ルダケ稅金ヲ上ゲナケレバナラヌ、國民一般ニ御奉公デアルト言ツテ非常ナ負擔ヲ掛ケテ居リナガラ、賣レテ稅ノ取レルモノヲ之ヲ制限スルコトハ、甚ダ私ハ其當ヲ得ナイト思フノデアリマスガ、モウ一遍御答辯ヲ願ヒマス

テハ、積極的ニ命令シ得ル狀況ニハナッテ居リマセヌ、只今縷々御話ガゴザイマシタケレドモ、先程モ申上ゲマシタ通り、昨年實行致シマスル當時ハ急速ニ話ヲ纏メナケレバナラヌト云フ事情ニアッタコトト、ソレカラモウーツハ、昨年ノ十月初メニ、昭和十二酒造年度ノ酒類需要石數ヲ達觀致シマス際ニハ、丁度支那事變ガ不擴大主義ヲ拋擲シテ支那膺懲ニ變ツタヤウナ時勢ノ時デゴザイマス、隨テ酒類ノ將來ノ消費ニ對シテハ、寧ロ生産ヲ伸バサナイ方ガ宜イト云フヤウナ意見ガ支配シテ居リマシタ、ソレカラ地方ニ於キマシテハサウ云フ一般的の大勢ニ拘關係デアルトカ、或ハ軍需品工場ガ出來タストカ言ツテ、一部ニハ需要ノ増ス方面モ認メラレタノデゴザイマスガ、大勢ヲ達觀致地方ニ於テ此地方ハ豐作或ハ軍需品等ノ關係デ殖ヤスト云フコトニナルト、各主張ヲ持出シマシテ容易ニ纏ラナイカラ、ソコデヤハリ今年ハ全國的ニ達觀シテ、前年ノ實蹟程度デ行クノガ宜カラウト云フコトデ、今業者ノ申合セガ出來タノデゴザイマス、其場合ニ於テ私モ脇ニ居ツテ聽イテ居ツクノデ

スケレドモ、北海道ノ方々ノ主張モアリマシテ、北海道ノヤウナ新興地デ、年々相當ノ酒類ヲ内地カラ移入シテ居ル所ハ増シテ貰ハナケレバ困ルト云フヤウナ御主張モゴザイマシタ、或ハ北九州ノヤウナ情況ヲ呈シテ居ル地方デハ、少シ餘計造ラシテ貰ハナケレバ困ルト云ツタヤウニ、各地各様ノ事情ガアッタノデゴザイマスケレドモ、昨年ハ取急イデ居ツテ、各、勝手ナコト——勝手ト言ツテハ語弊ガアリマスガ、各、自分ノ主張ノミヲ主張シテ居ツテハ纏マラナイカラ、昨年ハ兎ニ角前年ノ實蹟ニ依ツテ統制シテ行カウ、ソレカラ尙ホ之ヲ實施シタ結果ニ鑑ミテ、成程新興ノ地方ハ伸バシテヤラナケレバナラヌ、發展ヲシタ地方ハ伸バシテヤラナケレバナラヌ、是ハ地方別ニ付テノミニラズ、個人的ニ見テモ新興ノ者ト既ニ完成シタ者ト人間ニ、或ハ區別モ付ケナケレバイカヌ、サウ云フヤウナコトハ能ク研究シテ、今後ノ問題トシテ善處シテ參リタイト、斯ウ云

○板谷委員 後ノ御質問ノ方モ間ヘテ居ルガ圓滿ニ纏マッタ結果、大藏省モ、業者ノ話合カラ、私ハ成ベク簡単ニ切上ゲタイト思フノデアリマスガ、大體業者ノ善處ヲ待ツト云フコトヲ御話ニナルガ、先年私ハ燒酎ノ雲々モ蔭ナガラ援助ハ致シタイト思ヒマスガ、今差當ツテ命令ヲ以テ増產ヲサセント云フヤウナ點ハ考ヘテ居ラナイ譯デゴザイマス

以來相當酒ノ方ノ需要モ、當初ノ見込ヨリモ多クナッテ來ルト云フヤウナ狀況ニ依リマシテ地方ニ依ツテハ幾分品不足ヲ告ゲテ居ルモノト思フノデゴザイマスガ、未ダ業者ノ方ノ大體ノ觀察ト致シマシテハ、此際増スコトハ全國的ニ見テ危險デアル、今後位デ買集メテ、殆ド二三ノ者ガソレヲ專有現ニ北海道ノ如キモ、三万石近クモ道外力現ニ北海道ノ如キモ、三万石近クモ道外力シテ、今デモソレヲ繼續シテ居ル、斯ウ云フ馬鹿ガタコトハアリ得ベキモノヂヤナイ、殆ド酒稅ハ北海道ノ、國策トシテ拓殖計畫ヲ實行スル上ニ於テノ唯一ノ財源デアル、アルカラ業者ノ統制ニ委スト云フ御話デアルガ、今御話ノ通り中央聯合會ニ對スル豫算ヲ見ルト、十万圓ノ補助金ヲ出しシテ居ル、是ハ一體何ノ爲ニデスカ、大キナ連中ガ寄ツテ、自分等ガ酒ノ造石ニ付テハ一種ノ特權デアルカノ如ク中小ノ酒屋ヲ壓迫シテ、自分等ガ餘計造ツテ居ルカラ、成ベク他ニ餘計造ラセナイヤウニスルト云フ手段ヲ彼等ガ執ツテ居ルニ拘ラズ、政府ガ國費ヲ十一萬圓モ出シテ補助スルト云フヤウナ馬鹿ゲタコトハアルベキコトデヤナイト私ハ思フ、デアルカラ業者ノ考バカリデハナク、大藏當局ハ稅ヲ出來ルダケ上ゲルト云フコト、又一般ノ需要供給ノ關係ヲ御考慮ニナッテ、或ル場合ニ於テハ法律ニ依ツテ命令ヲ發ス

ルコトハ、馬場大藏大臣ガ提案ニナッタケレドモ、ソレハ御止メニナッタト云フ話デアリマスガ、業者ニノミ委セズ、其現在ノ状態ヲ見テ出来ルダケ——例ヘバ東北ノ如キ、北海道、北陸ノ如キ米产地、所謂新興地ニ於テハ酒ハ足ラヌノデアリマスルカラ、是ハ十分ニ一ツ御調査ニナッテ、明年ハ此需要ニ應ズルダケノ酒ヲ造ラセル手段ヲ御執リニナル御考ガアルカドウカ、モウ一度此邊ヲ確メテ置キマス

○松隈政府委員 重ネテノ御尋デアリマスルガ、酒類ノ生産統制ト云フノハ中々難カシイ問題デゴザイマシテ、昨年ハ出發當初

デゴザイマスルノデ、機械的ナ方法デ抑ヘルト云フコトデ、漸ク纏マッタヤウナ次第

不十分ナ點ガアルコトハ承知シテ居リマス、ソコデ出來ルダケ之ヲ合理化スルト云

フコトニ付テハ、假令酒造組合ノ自治的統制デハアリマスケレドモ大藏省ニ於キマシテモ、業者ノ進ムベキ方向ガ正シイ方向ニ進ムヤウニ、絶エズ注意ヲ拂ハナケレバナラヌコトハ御説ノ通デアルト思ヒマス、今後ハ業者ニ於テモ、二年目、三年目トナレバ次第ニ各種ノ調査モ完備シ、色々統制案ヲ立テルニ付テノ標準等モ出來テ參ル思

フノデアッテ、隨テ一層今後ハ合理化サレルト思フノデアリマス、業者ノ自治的申合セヲ認可致シマスル大藏省ト致シマシテモ、各種ノ資料カラ致シマシテ、最モ合理的ナルモノニナルヤウニ指導シテ參ルト云フコトヲ申上ゲテ置キマス

○板谷委員 モウ一點デアリマス、自治統制ト云フコトハ必シモ絶對のモノデハナインデス、要スルニ大藏省ガ必要アル場合ニ於テハ、其自治統制ニ服スルコトヲ命ズ

ルコトガ出來ルト云フ法律デアリマス、ソレハ御承知ノ通リデアリマス、デアルカラ將來伸ビル力ガアリ、或ハ需要ガ供給ニ伴

シニクイノデスカラ、此點ヲ明ニシテ置キ

フト云フコトニ付テ合理化ヲスル、斯ウ云月ニナルト言ハレマシタ趣旨ガドウモ理解

シニクイノデスカラ、此點ヲ明ニシテ置キ

タイ爲ニ御尋致シマス

○岡本委員 最長三箇月最短二箇月、斯ウ云フコトデアリマス

○大矢政府委員 最長三箇月最短二箇月、斯ウ云フコトニ付テ三四

點御尋致シタイト思ヒマス、先づ第一ニ御尋致シマスノハ、物品稅ノ納期デアリマス、

ドナタデアリマシタカ御質問中ニ、政府ノ御答辯デハ、擔保ヲ入レタ際ニハ結局

入レタ際デアリマス、平均スレバ二箇月半、斯ウ云フコトニナルヤウデス、併シ一般ノ

商取引トシテ手形デ取引ガ行ハレル時ニ、手形ノ期間ハ三箇月、斯ウ云フコトモアリ

マスカラシテ、結局三箇月ニシテヤシテモ、ト存ジマシテ、先づ大體ニ二箇月乃至三箇月ノ期間ガアッタナラバ、税率ノ點カラ言ッテモノ割乃至一割五分程度ノモノデゴザイマスカラ、支障ハナカラウ、斯ウ存ジタ次第

デアリマス、尙一面、砂糖消費稅ノ如キハ特ニ此際徵收猶豫ノ期間モ繰上ゲルト云

ヤウナ狀況デゴザイマシテ、此事變下ノ

増稅トシテ成ベク國庫收入モ增收ヲ期シタノデアリマス、所ガ其三箇月ト云フコ

トガアリマシタカラ御尋ヲ致シマスガ、

一箇月延バシテ結局二箇月延バス、斯ウ云

フコトニハ出來マスマイカ、同ジ大藏省デ取扱ハレマスル專賣局ノ延納代金ハ、擔保ヲ入レタ際ニハ初メニ二箇月デ後三箇月ニ

元賣捌ハナクナッタノデアリマスガ、サウ云

フヤウナコトヲ考ヘテ見マシテモ、擔保ヲ入レタ際ニハモウ一箇月延バシテ二箇月ニ

シテ、納期ヲ御定メニナル、斯ウ云フコトニスルガ宜カラウト思ヒマスガ、之ニ對シ

テ何カ政府ノ方デ御經理上不都合、不便ガアルカト云フコトヲ承リタイ、御差支ガナ

ケレバサウ云フコトニ願ヒタイト思ヒマス

○大矢政府委員 取引ガ手形ニ依ッテ決済

サレル場合、普通三箇月ノモノデアルト云

フコトハ大體仰セノ通リデアルト思マス、併ナガラ其中ニハ現金取引ノモノモモアルカ

ト存ジマシテ、先づ大體ニ二箇月乃至三箇月ノ期間ガアッタナラバ、税率ノ點カラ言ッテモノ

一割乃至一割五分程度ノモノデゴザイマスカラ、支障ハナカラウ、斯ウ存ジタ次第

デアリマス、尙一面、砂糖消費稅ノ如キハ特ニ此際徵收猶豫ノ期間モ繰上ゲルト云

ヤウナ狀況デゴザイマシテ、此事變下ノ

ノ状況等モ考ヘマシテ、此程度ガ最モ適當  
デハナカラウカト存ジテ居ル次第デアリマ  
ス

○東條委員長代理 一寸岡本君ニ御諮リ致  
シマス、農林大臣ガ御見エニナリマシタガ、  
又他ヘ御出デニナラナケレバナリマセヌ、  
岡本君ノ御質問ニ對シテ河野君、田村君力  
ヲ關聯質問ノ御要求ガアリマスガ、後廻シ  
ニシテ戴イテ、岡田君ノ農林大臣ニ對スル  
質疑ヲ留保サレテ居ルノガアリマスノデ、  
之ヲ許シタイト思ヒマス——ソレデハ岡田  
忠彦君

○岡田委員 今日ヘ農林大臣御多忙ノ所ヲ  
態々御出デラ願ッタノデアリマスガ、私一點  
ダケ御伺致シタイコトヲ留保シテ居タノデ  
アリマスガ、ソレハ此増税案トハ直接ニハ關  
係ガアリマセヌケレドモ、併シヤハリ間接的  
ニ關係ノアルモノデアリマスカラ、御尋ヲ  
致スノデアリマス

〔東條委員長代理退席、委員長著席〕

中華民國臨時政府改正輸出入稅率表ト云フ  
ノガ、民國二十七年一月二十一日、即チ我  
國ノ本年一月二十日ニ公布サレテ居リマス、  
此事ハ此前ノ質問ノ言葉ノ中ニモ述べテ置  
キマシタ、又農林大臣ヘ既ニ御承知ト思ヒ

マス、其改正ノ中ニ、小麥粉ハ是マデハ暫時免稅デアリマシタニ拘ラズ、特惠ノ海關ニアラズシテ國際的ニ一樣ニ取扱フモノデアリマス、此事件ハ直接日本ノ政府ニハ關係ノナイコトノヤウデアリマスガ、併シ一面ニハ大藏省ノ方ニモ關係ガアルモノト思ヒマス、又外務省ノ關係デモアルト思フノデアリマス、或ハ拓務省モ關係ガアルカモ知レマセヌ、特ニ私ハ農村ニ對スル影響ニ付テ今日ハ御意見ヲ伺ッテ置キタイト思ヒマス、是マデ殊ニ北支ニ於テハ食糧品ガ缺乏シテ居ルト云フ關係カラシテ、軍需品ノ日本ノ小麥粉ニ付テハ特殊ノ取扱ヒヲシテアッタト云フコトハ確實デアリマスガ、此度之ヲ全部ニ開放シテ、一樣ノ取扱ニスルト云フコトニナルノデアリマス、ソコデ其影響ハドウナルカト考ヘテ見マスルノニ、日本ノ小麥ガ昨年以來相當ニ値段ガ上ッテ、農家ハ喜ンデ居ル、ソコデソレヲ以テ小麥粉ヲ造リ、之ヲ北支ニドンヽ送ルトナルト、是亦農村ノ繁榮ニ大キナ一助トナリ、日本ノ經濟界ニモ有利ナコトハ勿論デアリマスガ、此度之ヲ撤廢サレルコトニナシテ、列國ノ小麥粉ト云フモノガ對等ノ地位ニ立ツトドウナルカ、サウスルト日本ノ小麥粉ハ歐洲、加奈陀其

他ノ小麥ニ比ベレバ固ヨリ高イノデアリマス、高イ物ヲ以テ支那ノ大市場ニ於テ競争スルコトハ、是ハ勿論困難ナコトニナッテ日本ノ製造業者ガ競争スルカト申スト、茲ニ大藏省ノ閻魔様ガ來テイカヌト言フ、爲替ノ關係カラ許サヌト云フ、ソレハ許サヌカドウカ知ラヌガ、兎ニ角困難デアルト思フ、無限ニ之ヲ許スコトハ出來ナイ、ソコデ安イ小麥ヲ買ッテ製造業者ガソレデ競争スルコトモ出來ナイ、ソレナラバ日本内地ノ小麥ヲ用ヒテ競争セントスルナラバ、今言フヤウニ、關稅ノ開放ノ爲ニ「イクウオール・オツ・ポチュニテー」ノ爲ニ競争ガ出来ヌト云フト、ドウナルデアリマセウカ、日本ノ小麥ガ安クナルト云フコトハ、是ハ當然ノコトデアリマス、又商工省ノ關係カラ言ヘバ、日本ノ大ナル製造業ト云フモノガ列國トノ競争ニ堪ヘヌト云フコトハ當然デアル、此場合ニ如何ナルコトガアツテモ國家トシテ、北支ノ政府、若クハ北支ノ政府ヲ「リード」シテ居ル所ノ特務機關、或其後ヲ引イテ居ル陸軍省邊リト緊密ナル連絡ヲ執リ、緊密ナル研究ヲ遂ゲラレテ、何本ノ小麥ヲ保護スルト云フコトハ、政府ト

シテ當然デアラウト思フ、若シモ小麥粉ト  
云フモノガ只今申スヤウナ境涯ニ立至ル  
ト、少シ言ヒ方ガ大袈裟ナヤウデアルケレ  
ノニ及ブノデアリマス、出征兵士ガ向フニ  
行ツテ身命ヲ賭シテヤツテ居ル、其家庭ヲ振  
返ツテ見ルト、自分ノ重要作物ト云フモノハ  
北支臨時政府ノ關稅ノ爲ニ、所謂人爲的ノ  
政策ノ爲ニ大キナル影響ヲ蒙ルト云フ、之  
ヲ大キク言ヘバ士氣ニモ關係スルト思フ、  
私ハ是ハ小ナル事デハナイ、重大ナルコト  
デアルト思フ、北支臨時政府ト云フモノハ  
日本ノ監督外ダカラ分ラヌト言ヘバソレ迄  
ダガ、ソンナコトデハ是ハ濟マヌ、何處マ  
デモ北支ノ臨時政府ト云フモノハ日本ノ指  
導下ニ置カナケレバナラヌ、偶々外務省邊  
リト之ガ打合セガ付カナカッタカラ仕方ガ  
ナイ、第二次海關稅ノ改正ノ時ニ考ヘテ見  
マスト云フコトデハ、ドウモ農村ノ者ハ滿  
足致サヌト思フノデアリマス、之ニ付テ既  
ニ御研究ノコトト思フノデアリマス、此前  
モ言ウテアッタノダカラ、農村保護ノ立場ニ  
立ツテ居ル所ノ農相ハ如何ナル御考ガアリ  
マセウカ、又今日迄ソレヲドウスルト云フ  
方法ヲ講ゼラレツ、アリマスカ、其點ヲ御  
伺致シマス

○有馬國務大臣 岡田サンノ御質問ノ點ハ  
淘ニ御尤デアリマシテ、從來北支ニ輸入稅  
ガアリマシタ爲ニ、日本ノ小麥粉ノ輸出ガ  
有利ナ狀況ニアッタノデアリマスガ、最近ニ  
只今御述ベニナリマシタヤウニ總テ輸入稅  
ガ撤廢ラサレルコトニナリマシタ、是ハ北  
支ノ方ノ……

○岡田委員 一寸御待チ下サイ、サウザヤ  
ナイ、一般ニ輸入稅ヲ課ケヌコトニナック、  
今迄ハ日本ニ限り無稅デアッタ——一寸モ  
ウ一遍申シマセウ、聽イテ下サイ、今迄ハ  
暫定的ニ無稅デ出テ居ッタノデアリマス、ソ  
レハ規則ニ依ッタカドウカ知リマセヌゾ、規  
則ニ依ッタカドウカ知ラヌガ、兎ニ角日本ノ  
方カラドシ——無稅デ軍需品ノヤウナ形デ  
入レテ居ッタ、今度ハ列國均等ニナックノデ  
ス、此前ニ助川君ニ要領ヲ話シテ置イタノ  
デスガ、速記ニモアル、只今御返事ガナク  
テモ構ヒマセヌ、直接ニ増稅トハ關係ナイ  
ノダカラ宜イガ、併シ是ハ深刻ナ問題デア  
ルカラ、萬一今日御返事ガ戴ケナケレバ此  
次デモ宜シウゴザイマス、是ハ私ハ農林省  
ダケノ問題ダトハ思ハナイ、先程申シマシ  
タヤウニ外務省ニモ關係シ、拓務省ニモ或  
係シテ居ル、而モ日本ノ重要ナル農產物竝

ニ工業ニモ關係シテ居ル、是ハ御研究ノ上  
デ之ニ對スル御答ヲ願ハナケレバナラヌ  
○有馬國務大臣 私斯ウ云フ風ニ申上ゲマ  
シタノデス、從來一袋ニ付テ約七十五錢ノ  
輸入稅ガ課ツテ居ッタノデアリマスガ、ソレ  
ハ日本カラ參リマスモノハ所謂軍需品トシ  
テ、特ニ無稅ニ取扱ハレテ居ッタ、ソレダケ  
日本カラ輸入スルモノガ有利デアッタノデ  
アリマス、ソレガ今度全部無稅ニナック、爲  
ニ日本カラ參リマスモノガ特別ナ有利ナ狀  
態ニナラナクナック、詰リアナタノ仰シヤイ  
マスヤウニ、他處カラ入ッテ來ルノト同ジ條  
件ニ置カレタト云フコトヲ申上ゲタノデアリ  
マス(岡田委員)ソレハ私ノ聽達ビデシタ、  
分リマシタ】サウ云フコトハ北支ト致シマシ  
テハ必要ナ事柄デアルカトハ思ヒマスガ、日本  
側ト致シマシテハ、原價ガ高イノデアリマスカ  
ラ、同ジ條件デハ競爭ガ出來ナインデアリマス、  
然ルニ只今御話ニナリマシタヤウニ、此前ノ  
シタガ、實ハ是ハ私共ハ昨年カラ今年ノ初  
ニ掛ケテ向フヲ視テ廻ツタ時ニ、既ニ向フデ  
ハ問題ニナッテ居ッタ、特務機關ノ人ニモ能  
ク話シテ、私等ノ考ヲ吹込ンデ居ッタケレド  
モ、一ツモ實行セヌ、言ウテ見レバ聽キサ  
ウナ額ヲシテ居ルケレドモ、開ケテ見レバ  
何ニモ聽イテ居ラヌ、中々出先ハ強イノデ  
ル所ノコトハ何等知ラヌトハ言ハヌガ、第

モアルカト思フノデアリマス、隨テ北支ニ  
於キマシテ、外國カラ入ッテ參リマス小麥粉  
ニドウセ向フガ金ヲ拂フノデアリマスカラ、  
ソレハドッチカト言ヘバ日本ノ爲ニ拂ツテ吳  
シマシテハ内地カラ北支ヘ持ツテ參リマス小  
麥粉ニ付キマシテ何等カノ方策ヲ考ヘテ、  
日本ノ小麥粉ヲ買ッテ貰フト云フコトニ致  
サナケレバ、日本ノ内地トシテモ非常ニ農  
家ガ困難ヲ致ス譯デアリマスカラ、其點ニ  
付キマシテ只今案ヲ立テテ考究中デアリマス、  
大藏省ノ方ト何トカ御交渉ラシテ、適當ナ  
處置ガ執レバ幸ダト思ッテ、只今研究ヲ致  
シテ居ルヤウナ次第ゴザイマス

○岡田委員 只今ノ御答辯デ御研究ニナル  
ト云フコトデアリマスカラ、稍、安心シマ  
シタガ、實ハ是ハ私共ハ昨年カラ今年ノ初  
ニ掛ケテ向フヲ視テ廻ツタ時ニ、既ニ向フデ  
ハ問題ニナッテ居ッタ、特務機關ノ人ニモ能  
ク話シテ、私等ノ考ヲ吹込ンデ居ッタケレド  
モ、一ツモ實行セヌ、言ウテ見レバ聽キサ  
ウナ額ヲシテ居ルケレドモ、開ケテ見レバ  
何ニモ聽イテ居ラヌ、中々出先ハ強イノデ  
ル所ノコトハ何等知ラヌトハ言ハヌガ、第  
二次、第三次ニナッテ居ル、是ハ明瞭デス、  
長ク居レバ居ル程サウ云フヤウナ感ジニナッ  
テ居ル、ソレヲ匡正スルト云フコトガ、之  
ニ限ラヌ、開發スルニ當ツテノ根本義デアラ  
ウト思フ、ソコニ政府ノ努力ガ足ラヌ、中  
央政府ノ統制力ガ足ラヌ、私ハ是ハ一面諒  
トスルノデアリマスガ、ソレガ非常ニ憾ト  
爲ス所デアリマス、考究中ト云フ位デハ中々  
是ハイカヌ、日本政府全體ガ國策トナツテ  
向フヲ牽制スル、向フヲ「リード」スル位ノ  
力ヲ出シテ戴カナケレバ、ドウモ今ノ御話  
位デハ安心ヲ致シ兼ネル譯デアリマス、少  
シ無理デモ宜イデヤナイカ、何モ國際關係  
ヲ言ハヌデモ宜イデハナイカ、日本内地ヲ  
如何ニシテ良クスルカト云フコトヲ總テ同  
等ノ立場ニ置イテ貰フコトガ必要デアル、  
國策ノ如何ニ依ッテ私ハ改正ガ出來テ來ル  
ト思フノデアリマス、是ハ相變ラズ私ハ意  
見ヲ言ウテシマウテ、何ニモ御答辯ニナラ  
ヌヤウナコトニナリマスケレドモ、此事ヲ  
一つ頭ニ入レテ置イテ力強ク御研究ニナラ  
ネバナラヌ、小麥粉ノコトヲ今更言ツテ居  
テモ間ニ合ハヌデハナイカト思フ、ソレニ  
商品ヲ賣ルト云フコトハ急ラ要スルコトデ  
アッテ、一步誤レバ百歩ノ損デアル、列國ガ

起ツコトガ出來ナイ、早ク取ルコトガ必要デアル、早ク取ルト云フコトハ即チ一面日本ノ小麥粉ノ價格ヲ維持シ、農村ヲ興ス所以デアリマス、諄イヤウデアリマスケレドモ、此點ニ御注意ヲ熱望スル

ソコデ幸ニ此處ニ農林大臣ガ御越シデアリマスカラ、ソレト聯關シテ一寸伺ッテ見ルコトヲ御許シ願ヒタイ、ソレハ此前ノ豫算總會デ私ハ、外國ノ農產物ノ輸入ト云フモノハ段々減リ、若クハ杜絕スルノデアルカラ

日本ノ代用農產物ト云フモノノ御獎勵ヲ願ハシイコトデアルト云フコトヲ力強ク申述べテ置キマシタ、就中小麥粉ニ付テハ今ノヤウナ關係ニナッテシマッタ、困ッタコトデアル、其他或ハ麻デアルトカ、或ハ豆デアルトカ、總テ外國輸入品ノ代用品ニ付テノ御獎勵ト云フモノハ其後如何ニナッテ居ルノデゴザイマセウカ、簡単に御話ヲ願ヒマス

○有馬國務大臣 ドウ云フモノニ付キマシテト云ッテ、今品目ヲ舉ゲテ申上げ兼ネマスガ、今回ノ事變ニ伴フ所ノ國際收支ノ關係カラ申シマシテ、出來ルダケ農產物デ輸出ヲシ得ルモノハ之ヲ獎勵致シマスジ、又輸入ヲ防遏シ得ルモノハ出來ルダケ輸入ヲ防遏スルト云フ方針ヲ執リマシテ、ソレぐ

努メテ居ルノデアリマシテ、只今御話ノヤ

ウナ品目ニ付キマシテ内地トシテ出來ニク

イ物ハ、勿論臺灣等デ作ラナケレバ出來ナ

イモノハ致シ方ガアリマセヌガ、外國カラ

入ッテ來タモノデ内地デ栽培シ生産スルコ

トノ出來ルヤウナモノハ、出來ルダケ之ヲ

獎勵致シマシテ、外國カラ入ッテ來ルモノヲ

防グト云フ方針ヲ執ッテ居リマス、又一方ニ

輸出ノ出來ルヤウナモノニ付キマシテモ同様デアリマス

○岡田委員 只今ノ御説明ハ伺ハナクテモ

實ハ分ッテ居ル、ソレハ特ニ豫算總會デ私力

ラ言ウタコトデモアル、只今ハ具體的ニド

ウ云フ品目ヲ御獎勵ニナッテ居ルカト云フ

コトヲ伺ヒタインデス、例ヘバ私ガ申上げ

タヤウニ、豆ハドウシタノカ、麻ハドウシ

タノカ、茶ハドウシタノカ、棉ハドウシテ

居ルカト云フコトヲ具體的ニ伺ヒタイ、ド

ウ云フコトヲ今現實ニ政府ハ獎勵シテ居ルノ

ダ、ソレガ他ノ農作物ノ反別トノ關係ニ於

テ、他ノ必要ノ農產物ヲ減ズルコトハナイ

カト云フコトガ要點デアラウト思フ、其要

點ヲ具體的ニ御話ヲ願ヒタイト思フ、併シ

居ル間屋側ノ方デス、斯ウ云フ商賣人ハ其

セヌガ、物品稅ヲ納メルヤウナ品物ヲ扱ッテ

物品ヲ賣リマス利益ノ歩合、一面ニハ手形

ヲ出シマシタ時ノ金利ノ歩合、殆ド金利ノ

説明下サッテモ私ハ差支アリマセヌ

○有馬國務大臣 茶デアリマストカ、豆デ

アリマストカ、或ハ麻デアリマストカ、サ

御關係ガナイ、唯收入ガ餘リ遲レテハ困ル、

斯ウ云フ御立場ダケカト思フノデアリマス、

此邊ヲ能ク推量シテ戴キマシテ、手形期限

ノ三箇月、ソレハ金利ヲ免レルト云フ覺悟

デ、金利ダケハ出ナイト云フコトデ取引ヲ

シテ居ルノデアリマスカラ、其商賣人ノ實

情ヲ能ク御察シ下サッテ、擔保ヲ入レタ際ニ

ハ二箇月延納トカ、或ハ納期ヲ翌々月末、

スウデモシテ戴ケバ、ソコニ救濟ガ出來ヨ

ドウ云フ増產計畫ヲナスッテ居リマスカ、或

ハ品種改良ニ付テハドウ云フ計畫ヲ立テ、

居ラレマヌカ、又ソレガ增產ノ曉ニ於テハ

外國ノ品目トノ關係ハドウナルカ、又日本

ノ他ノ重要產物ノ反別ヲ侵蝕スルコトハナ

イカ、ソレトノ利害關係ハドウナルカト云

フ點ガ私ハ聽キタインデアリマシテ、只今

御答辯ヲ得ナクテモ宜イト思ヒマス、又政

府委員カラ材料ヲ御作リニナリマシテ御渡

シ下スッテモ構ヒマセヌ——私ノ質問ハ濟

ミマシタ

○岡本委員 物品稅ノ納期ニ付テ今少シク

テ、他ノ必要ノ農產物ヲ減ズルコトハナイ

カト云フコトガ要點デアラウト思フ、其要

點ヲ具體的ニ御話ヲ願ヒタイト思フ、併シ

居ル間屋側ノ方デス、斯ウ云フ商賣人ハ其

セヌガ、物品稅ヲ納メルヤウナ品物ヲ扱ッテ

物品ヲ賣リマス利益ノ歩合、一面ニハ手形

ヲ出シマシタ時ノ金利ノ歩合、殆ド金利ノ

然ルニ政府ノ方ハ金利ト云フモノハ餘リニ

御關係ガナイ、唯收入ガ餘リ遲レテハ困ル、

斯ウ云フ御立場ダケカト思フノデアリマス、

此邊ヲ能ク推量シテ戴キマシテ、手形期限

ノ三箇月、ソレハ金利ヲ免レルト云フ覺悟

デ、金利ダケハ出ナイト云フコトデ取引ヲ

シテ居ルノデアリマスカラ、其商賣人ノ實

情ヲ能ク御察シ下サッテ、擔保ヲ入レタ際ニ

ハ二箇月延納トカ、或ハ納期ヲ翌々月末、

スウデモシテ戴ケバ、ソコニ救濟ガ出來ヨ

ウカト思ヒマス、軽テハ極ク微弱ナガラ物

價騰貴モ斯ウ云フコトガ抑制ノ一つニナリ

マスカラ、政府デ御不便デナイ以上ハ斯様

ニナサッテ、然ルベシト思ヒマスガ、今一應

政府ノ御意見ヲ承リタイト思ヒマス

○大矢政府委員 徵收猶豫ノ問題ハ物品稅

ノ中第二種ノ方ニ付テ起ルノデアリマシテ、

第一種ノ方ハ小賣デゴザイマスカラ問題ガ

起ツテ來ナイノデアリマス、第二種ハ製造所

ヨリ出テ行ク時ニ課稅ヲセラレルノデアリ

マスカラ、同ジ稅率ノ一割五分、ナラ一割五

分、一割ナラ一割ト致シマシテモ、多少第

一種ノ方ヨリ負擔割合ガ低クナル譯デゴザ

イマス、ソレカラ第二種ノ甲類一、二、三、

四五號マデノ分ハ、從來モ北支事件特別稅

ニ於テ課稅ノ對象トナッテ居ルモノデゴザ

イマシテ、之ニハ別ニ一箇月ノ徵收猶豫ト云フコトハゴザイマセヌデシタガ、今日マデ左様ノ支障モナク實行セラレテ來テ居ル狀況デゴザイマス、此度品目モ相當範圍ヲ擴ゲマシタシ、其中ニハ例ヘバ化粧品ノ如キモノニ付テハ、或ル程度考慮シナケレバナラヌモノモゴザイマスノデ、特ニ北支事件特別稅ノ時ニナカッタ一箇月ノ猶豫ト云フコトモ此際設ケヨウト云フノデアリマス、金利ト云フ御話モゴザイマシタガ、先程申上ゲマシタ通り、各種物品ヲ通ジテ見マシテ、或ル程度現金取引モアルコトデゴザイマスシ、先ヅ二箇月、三箇月程度ノ實質上ノ猶豫期間ガゴザイマスレバ、大體支障ナク行カレルコトデアラウト存ジテ居ル次第デアリマス

○岡本委員 マダ物品稅デ御尋致シタイコトガ二三アリマスガ、此際河野君ガ物品稅納期ノコトダケニ付テ牽聯ノ質問ガアルト云フコトデアリマスカラ譲リマス

○河野委員 只今大矢政府委員カラノ御答辯デ、最短六十日、最長九十日ト云フ御話デゴザイマシタガ、最短ト云フノハ何處カラ計算シテ最短ト云フノデスラ計算シテ最短ト云フノデスカ、最長ト云フノハ何處カラ計算シテ最長ト云フノデス

○大矢政府委員 先程岡本サンカラ御話ニナリマシタ例ニ付テ申シマスレバ、二月ノ初メニ引取りリマシタノハ四月末ガ納期ニナルノデゴザイマス、ソレカラ二月末ニ出シタノハヤハリ四月末ニナリマス、隨テ先程申上ゲタ通リニナルト思ヒマス

○河野委員 一寸重ネテ御尋シマスガ、サウスサウスルト商取引ノ現狀デヘ二月ノ初ニ出シタモノデモ、二月二十五日ナラ二十五日ニ限ッテ手形ヲ出シテ居ルノデスガ、サウスレバ其手形ノ期限ガ三箇月トシテ、ソレニ大體適應スルコトニナル譯デアリマスカ、

○大矢政府委員 先程カラ申上ゲテ居リマスシ通リ、引取ッタ時カラノ計算デゴザイマス、擔保ヲ入レナイ時ニハ勿論二月中ノモノハ三月末ニナル譯デゴザイマス

○河野委員 モウ一度伺ヒマス、ソレデハ其最短、最長ト云フコトダケデ御答辯ニナルノハ、非常ニ誤解ヲ招キ易イ、ソレト、岡本サンカラ吳々モ言ハレタヤウニ、今ノ部分モアルダラウト思ヒマス、又サウデナイモノモアラウカト思ヒマス、又サウデナイモノハ、現金取引ノ實情ガ二月初ニ取引シタモノデモ、商取引ノ實情ガ二月初ニ取引シタモノデモ、大抵二十五日ニ切ッテ手形ヲ出シテ居ル、ソレニ擔保ヲ納メタ場合ニハソレヒタイト云フノガ岡本サンノ言ハレタ點ダ

○大矢政府委員 證ヲシタ場合ニ於テハ五月ノ末、斯ウナル譯デスカ

○大矢政府委員 普通ナレバ二月ノ中ニ引取ッタノハ三月末デゴザイマス、擔保ヲ出シテ徵收猶豫ノ適用ヲ受ケマシテ四月末、斯ルノデアリマスガ、北支事件特別稅法ノ施行ノ實績ニ顧ミマシタモ、左程ノ支障ナシニ施行セラレテ來マシタ、ソレカラ此度更ニ課稅物品ノ範圍ヲ擴張致シマシタカラ、一箇月ノ徵收猶豫ヲ認メタ、ソレデ手形デ決済スルノモアリマセウケレドモ、現金取引ノモノモ相當アラウト思ヒマス、サウ云フ點ヲ考ヘテ見マスト、大體此程度デ支障ナク行カレルモノダラウ、斯ウ存ジテ居ル次第デゴザイマス

○河野委員 諱イヤウデスガ、モウ一點伺ヒマス、第一種ト第二種ノ間ニ區別ヲ付ケラレテハドウカト私ハ思フ、小賣業者カラ取ルモノト、製造業者カラ納メル稅金トノ間ニハ、稅金デモ性質ガ非常ニ違フノデ、第一種ノ方ハ現金取引デアリマスガ、第二種ノ方ハ現金取引デハナイノグカラ、其間ニ区別ヲ付ケラレテハドウカト思ヒマス

○大矢政府委員 是ハ先程申上ゲマシタ通り、第一種ノ物品ニ付テハ徵收猶豫ト云フコトハゴザイマセヌ、第二種ノ方ニ限ッテ徵收猶豫ヲ致シマスノデゴザイマス

○河野委員 分リマシタ——岡本サン、ドウモ有難ウ

○岡本委員 物品稅ノコトニ付テ尙ホ一二  
御伺致シマス、所謂「ストック」品デスガ、是ハ  
三千圓ト云フ限界ヲ示サレテ居ルヤウ  
デス、併シ之ヲ實情ニ合シテ見ルト、何レ  
ノ商賣モ皆三千圓ト云フコトデハ、非常ナ  
不公平ニナル、是ハ曾テモ出タ例デアリマ  
スガ、自動車ノ如キハ一臺デ皆三千圓ヲ超過  
スル、化粧品ノ如キハ三千圓ト云フト、平均  
一圓トシテモ三千點、五十錢ナラ六千點モ  
ナケレバナラヌト云フヤウナコトニナリマ  
シテ、商賣々々ニ依ツテ實情ハ餘程違フト思  
フノデアリマス、尤モ小賣トカ或ハ小サイ商  
賣ナラ「ストック」品ヲ三千圓モ持ツテハ居リ  
マスマイカラ、大多數ノモノハ關係ナイカ  
モ知レマセヌガ、之ニ關係ノアル商賣カラ  
見マスルト、一率ノ三千圓デハ非常ナ不公  
平ガ出ル、ダカラ是ハ寧ロ實情ニ合フヤウ  
ニ、商賣々々ニ依ツテ勅令カ大藏省令デオ  
決メニナツタ方ガ公平ニナリ、實情ニ合フノ  
デハナイカ、斯ウ云フ考ガアルノデアリマ  
ス、ドウモ總動員法ニ付テ、法律デ決メル  
コトヲ勅令ニ讓ルコトニ非常ナ反對ガアリ  
マスノデ、此際私ガ斯様ナコトヲ申スノハ  
ヲカシイノデアリマスガ、斯ウ云フ細カイ  
コトハ委任命令デ宜カラウト思フ、大キナ  
コトハイケマセヌケレドモ、——其方ガ實

情ニ合フカト思ヒマス、併シ本案ガ貴衆兩  
院ヲ通過シテ直グ四月一日カラデモ行ハナ  
御準備ガナケレバ勅令モ省令モ出來マスマ  
イカラシテ、先ヅ斯ウ云フ御調査ヲナサッタ  
不公平ニナル、是ハ曾テモ出タ例デアリマ  
スガ、自動車ノ如キハ一臺デ皆三千圓ヲ超過  
スル、化粧品ノ如キハ三千圓ト云フト、平均  
一圓トシテモ三千點、五十錢ナラ六千點モ  
ナケレバナラヌト云フヤウナコトニナリマ  
シテ、商賣々々ニ依ツテ實情ハ餘程違フト思  
フノデアリマス、尤モ小賣トカ或ハ小サイ商  
賣ナラ「ストック」品ヲ三千圓モ持ツテハ居リ  
マスマイカラ、大多數ノモノハ關係ナイカ  
モ知レマセヌガ、之ニ關係ノアル商賣カラ  
見マスルト、一率ノ三千圓デハ非常ナ不公  
平ガ出ル、ダカラ是ハ寧ロ實情ニ合フヤウ  
ニ、商賣々々ニ依ツテ勅令カ大藏省令デオ  
決メニナツタ方ガ公平ニナリ、實情ニ合フノ  
デハナイカ、斯ウ云フ考ガアルノデアリマ  
ス、ドウモ總動員法ニ付テ、法律デ決メル  
コトヲ勅令ニ讓ルコトニ非常ナ反對ガアリ  
マスノデ、此際私ガ斯様ナコトヲ申スノハ  
ヲカシイノデアリマスガ、斯ウ云フ細カイ  
コトハ委任命令デ宜カラウト思フ、大キナ  
コトハイケマセヌケレドモ、——其方ガ實

○大矢政府委員 本法施行ノ際ノ現在商品  
ト申シマスカ、ソレニ課稅スル限界ヲ三千  
圓ト致シマシタノハ、度々申上ゲマス通リ、  
理論上ハ本法施行後ハ此課稅ノ爲ニ、其物  
品ノ値段ハ上ルベキデアリマスカラ、隨テ  
總テノ現在商品ニ對シテ漏レナク課稅シテ  
一向差支ナインデゴザイマス、此點ハ所得  
稅ノ免稅點ヲ設ケタ趣旨トハ全ク違フノデ  
ゴザイマシテ、極ク微細ナ所マデ課稅シテ  
行ツテモ、理論上ハ毫モ支障ガナイノデゴ  
ザイマス、但シ此理論ヲ實際ニ貫徹シテ行  
キマスルト、小賣商店ノ少シバカリノ品物  
ニ付テモ極ク細カク一々調べテ課稅シテ行  
カナケレバナラヌト云フコトニナリマスル  
ノデ、餘リニ煩瑣ニ瓦ル嫌ヒガゴザイマス  
ノモ、此施行ニ於テ唯一回ダケ課稅スル立  
前カラ致シマシテ如何ナモノデアルカト思  
フ、モット直截簡明ニヤツテ施行ノ際ノ煩瑣  
ヲ避ケタイ、斯ウ存ジタ次第ゴザイマス、  
其最低限ヲ設ケルニ當リマシテ、東京市内  
大阪市内、或ハ地方ノ中都市ノ商店ニ付キ  
タ次第ゴザイマス、而シテ是ハ第三十八  
條ニ掲ゲテ居リマスル各品目ニ付キマシテ、

而モ各場所毎ニ見ルノデゴザイマスカラ、  
三千圓ト云フ限界ハ相當高イノデゴザイマ  
ス、自動車ダケハ是ハ價額ガ一臺デ五千  
圓、六千圓トスルノデアリマスカラ、是ダ  
ケハ全ク特別テアルト云フコトハ、前々申  
トト存ジマス、之ヲ御説ノヤウニ各品目ニ  
コトガアリ、御準備ガアリマスカ、或ハア  
リマセヌカ、ソレヲ一ツ伺ヒマス  
○岡本委員 私ノ御尋致シマシタ趣旨ガ徹  
スルト、一個ノ商店ニ於テ各号ノ品目ヲ相  
當澤山ノ種類ニ互ツテ持ツテ居ル場合ハ、ヤ  
ハリ合計シテ見ナケレバナラヌノデハナイ  
カト云フヤウナコトモ出テ來ルノデゴザイ  
マス、ト同時ニ課稅ノ如キモ、最低限ハ三  
千圓ヨリモット引下ゲテ然ルベキデハナイ  
カ、上ゲルコトハナイ、引下ゲルコトニナ  
リハシナイカ、斯ウ云フ風ニモ思ハレマス、  
先づ大體中小ノ小賣商店ノ持ツテ居ル品物  
ハ免稅シヨウト云フ趣旨カラ致シマスレバ  
餘リ各品目ニ互ツテ細カク區分致シマシテ、  
ソレドヽ別個ノ課稅最低限ヲ設ケルト云フ  
ノモ、此施行ニ於テ唯一回ダケ課稅スル立  
足ルモノモアレバ、千圓デ結構ナモノモア  
ル、或ハ五千圓モ一万圓モ要ルモノモアル、  
平素ノ業態々々ニ違フカラ、寧ロ業態ノ類  
種ニ依ツテ御決メニナツタラドウカ、第一種、  
第二種、第三種ト云フヤウニ、此法律デ見  
マシテモ其中ニ更ニ一、二、三、四ト云フ  
ヤウニ皆分類シテ御決メニナツテ居リマス、  
「ストック」三千圓カラ以上デアル、第二種  
ノモノハ五千圓以上、第三種ハ一万圓以上  
トカ、サウ云フヤウニ業種ニ依ツテ區別シ

ナケレバ實際ニ不公平デヤナイカ、之ヲ御

尋スルノデアリマス、ソレサヘ御決メニナ

レバ、手續ノ煩瑣ト云フコトハ何モ別ニア

ルマイト思フノデアリマスガ、何カ其處ニ

不都合ナ點ガアリマスカ

○大矢政府委員 此現在品ニ課稅スルト云

フノハ、第一種ニ付テハ問題ガ起シテ來ナ

イノデ、第二種トシテ課稅スルモノダケ

ニ付テ、ゴザイマス、ソレカ各業態別ニ適

當ニ數量ヲ分ケタラ宜イデハナイカト云フ

御話デゴザイマスルガ、ソレハ恐ラク結局

此規定ハ見越引取防止ノ規定デアルカラ、

普通ノ場合ニ持ツテ居ル數量ダケハ免稅シ

テ宜イノデハナカラウカト云フ、斯ウ云フ

御趣旨カラ出テ居ルコトカト存ゼラレマス

ガ、勿論見越引取防止ト云フノハ一ツノ重

要ナル目的デアリマス、併ナガラ一方ニ於

テ本法施行後ハ課稅物品ガソレダケ値上リ

ヲスル、ダカラ値上リスル部分ノモノハヤ

ハリ稅トシテ徵收ショウ、斯ウ云フ趣旨デ

アリマスカラ、卸商等ニ於キマシテ數万圓、

或ハ數十万圓ノ現在商品ガアルト云フ場合

ニ、ソレハ普段ノ取引ノ場合ニ常ニアルモ

ノデアルカラ、是ハ課稅外ニ置ク、斯ウ云

フ譯ニハ行キマセヌ、サウ云フ見地ニ立チ

マシテ三千圓ト大體一律ニ致シタ次第デゴ

ザイマス

○岡本委員 商工大臣ガオ忙シイ中ヲ態、暇

ヲ割カレテオ出デニナリマシタカラ、ドナ

タカニ御讓リ致シテ宜シイガ、幸ヒ商工大

臣ガオ居デニナリマスカラ、アトモウ一點

物品稅ニ付テ伺ヒタイ、只今ノ御説明ハ是

レ以上ハ水掛論ニナリマスカラ私ハ打切ッテ

置キマスガ、之ニ付テ前田房之助君ガ簡單

ナ關聯質問ガアルサウデスカラ、途中デ切

リマシタ時ニ御許シヲ願ヒタイト思ヒマス、

幸ヒ商工大臣ガオ居デニナリマスカラ伺ヒ

マスガ、此物品稅ノ課タ品物ノ中デ輸出ニ

ナルモノ、例ヘバ亞米利加ニ行ク陶磁器ト

カ、南洋ノ方ニ行ク自轉車類、支那ニ行ク

自轉車類ト云フヤウナモノガ、隨分此中ニ

アルト思ヒマス、ソコデ輸出ノ物ニ付テハ

慥カ免稅スルト云フ規定ガアツタ思ヒマ

ス、ソレデ輸出ノ免稅ノコトダケハ諒解シ

テ居リマスガ、其モノガ輸出先ニ於テ、内

地デ物品稅ノ課カルベキモノガ課カラナイ、

ソレダケノ所ハマダ關稅ヲ付ケテモ差支ナ

イト云フヤウナ所カラ、輸出先ニ於テ關稅

ヲ引上げラレヤシナカト云フ懸念ヲ持ツ

テ來ル、殊ニ陶磁器ノ如キハ澤山亞米利加ニ

參リマスガ、大體二十圓以上ノ品物ニナッテ

ハナイノデアリマス、是ハ外務省ヲ通ジマ

シテ紐育ノ總領事ノ回答モ得テ居ル次第デ

ス、内地ノ此法律ハ是デ宜シイガ、其懸念ヲ

多分ニ持ツテ居リマス、向フデ關稅ヲ付ケラ

レルモノナラバ何ニモナラナイ、斯ウ云フ

結果ニ落チテシマヒマス、折角コツチデ輸出

ニ免稅致シマシテモ何モナラナイ、此邊ハ

何トカシテソレヲ御防ギニナルヤウナ手段

ガアリマスカ、尤モ外國デヤルコトデスカ

ラ、日本ノ法律デドウ斯ウスルト云フコト

ハ出來ヌカモ知レマセヌガ、日本デ免稅ヲ

シテモ、向フデ關稅ニ取ラレテシマッテハ何

モナラナイ、斯ウ云フ懸念ガアリマスガ、

其點ハドウ云フコトニナリマスカ、御伺致

シマス

アリマス、ソレカラ自轉車ニハ此度ノ物品  
稅ハ課稅シテ居リマセヌカラ、其問題ハ起ツ  
テ來ナイノデアリマス

○高橋委員長 岡本君ノ質疑ノ物品稅ニ對

シテ多數ノ關聯質疑ガアリマスガ、岡本君

ノ質問ト共ニ之ヲ留保シテ、商工大臣ニ對

スル質疑ヲ今ノニ關聯質疑ガアリマスガ、岡本君

ナケレバ實際ニ不公平デヤナイカ、之ヲ御

尋スルノデアリマス、ソレサヘ御決メニナ

レバ、手續ノ煩瑣ト云フコトハ何モ別ニア

ルマイト思フノデアリマスガ、何カ其處ニ

不都合ナ點ガアリマスカ

○大矢政府委員 此現在品ニ課稅スルト云

フノハ、第一種ニ付テハ問題ガ起シテ來ナ

イノデ、第二種トシテ課稅スルモノダケ

ニ付テ、ゴザイマス、ソレカ各業態別ニ適

當ニ數量ヲ分ケタラ宜イデハナイカト云フ

御話デゴザイマスルガ、ソレハ恐ラク結局

此規定ハ見越引取防止ノ規定デアルカラ、

普通ノ場合ニ持ツテ居ル數量ダケハ免稅シ

テ宜イノデハナカラウカト云フ、斯ウ云フ

御趣旨カラ出テ居ルコトカト存ゼラレマス

ガ、勿論見越引取防止ト云フノハ一ツノ重

要ナル目的デアリマス、併ナガラ一方ニ於

テ本法施行後ハ課稅物品ガソレダケ値上リ

ヲスル、ダカラ値上リスル部分ノモノハヤ

ハリ稅トシテ徵收ショウ、斯ウ云フ趣旨デ

アリマスカラ、卸商等ニ於キマシテ數万圓、

或ハ數十万圓ノ現在商品ガアルト云フ場合

ニ、ソレハ普段ノ取引ノ場合ニ常ニアルモ

ノデアルカラ、是ハ課稅外ニ置ク、斯ウ云

フ譯ニハ行キマセヌ、サウ云フ見地ニ立チ

マシテ三千圓ト大體一律ニ致シタ次第デゴ

ザイマス

○岡本委員 商工大臣ガオ忙シイ中ヲ態、暇

ヲ割カレテオ出デニナリマシタカラ、ドナ

タカニ御讓リ致シテ宜シイガ、幸ヒ商工大

臣ガオ居デニナリマスカラ、アトモウ一點

物品稅ニ付テ伺ヒタイ、只今ノ御説明ハ是

レ以上ハ水掛論ニナリマスカラ私ハ打切ッテ

置キマスガ、之ニ付テ前田房之助君ガ簡單

ナ關聯質問ガアルサウデスカラ、途中デ切

リマシタ時ニ御許シヲ願ヒタイト思ヒマス、

幸ヒ商工大臣ガオ居デニナリマスカラ伺ヒ

マスガ、此物品稅ノ課タ品物ノ中デ輸出ニ

此規定ハ見越引取防止ノ規定デアルカラ、

普通ノ場合ニ持ツテ居ル數量ダケハ免稅シ

テ宜イノデハナカラウカト云フ、斯ウ云フ

御趣旨カラ出テ居ルコトカト存ゼラレマス

ガ、勿論見越引取防止ト云フノハ一ツノ重

要ナル目的デアリマス、併ナガラ一方ニ於

テ本法施行後ハ課稅物品ガソレダケ値上リ

ヲスル、ダカラ値上リスル部分ノモノハヤ

ハリ稅トシテ徵收ショウ、斯ウ云フ趣旨デ

アリマスカラ、卸商等ニ於キマシテ數万圓、

或ハ數十万圓ノ現在商品ガアルト云フ場合

ニ、ソレハ普段ノ取引ノ場合ニ常ニアルモ

ノデアルカラ、是ハ課稅外ニ置ク、斯ウ云

フ譯ニハ行キマセヌ、サウ云フ見地ニ立チ

マシテ、小賣課稅ニ付キマシテハ亞米利

加ノ關稅ニハ先程申上ゲマシタ條項ノ適用

シテ紐育ノ總領事ノ回答モ得テ居ル次第デ

依ツテ、成ベク消費者ノ方ニ少ク轉嫁セシム

アリマス、ソレカラ自轉車ニハ此度ノ物品  
稅ハ課稅シテ居リマセヌカラ、其問題ハ起ツ  
テ來ナイノデアリマス

○高橋委員長 岡本君ノ質疑ノ物品稅ニ對

シテ多數ノ關聯質疑ガアリマスガ、岡本君

スル質疑ヲ今ノニ關聯質疑ガアリマスガ、岡本君

ナケレバ實際ニ不公平デヤナイカ、之ヲ御

尋スルノデアリマス、ソレサヘ御決メニナ

レバ、手續ノ煩瑣ト云フコトハ何モ別ニア

ルマイト思フノデアリマスガ、何カ其處ニ

不都合ナ點ガアリマスカ

○大矢政府委員 此現在品ニ課稅スルト云

フノハ、第一種ニ付テハ問題ガ起シテ來ナ

イノデ、第二種トシテ課稅スルモノダケ

ニ付テ、ゴザイマス、ソレカ各業態別ニ適

當ニ數量ヲ分ケタラ宜イデハナイカト云フ

御話デゴザイマスルガ、ソレハ恐ラク結局

此規定ハ見越引取防止ノ規定デアルカラ、

普通ノ場合ニ持ツテ居ル數量ダケハ免稅シ

テ宜イノデハナカラウカト云フ、斯ウ云フ

御趣旨カラ出テ居ルコトカト存ゼラレマス

ガ、勿論見越引取防止ト云フノハ一ツノ重

要ナル目的デアリマス、併ナガラ一方ニ於

テ本法施行後ハ課稅物品ガソレダケ値上リ

ヲスル、ダカラ値上リスル部分ノモノハヤ

ハリ稅トシテ徵收ショウ、斯ウ云フ趣旨デ

アリマスカラ、卸商等ニ於キマシテ數万圓、

或ハ數十万圓ノ現在商品ガアルト云フ場合

ニ、ソレハ普段ノ取引ノ場合ニ常ニアルモ

ノデアルカラ、是ハ課稅外ニ置ク、斯ウ云

フ譯ニハ行キマセヌ、サウ云フ見地ニ立チ

マシテ三千圓ト大體一律ニ致シタ次第デゴ

ザイマス

○岡本委員 商工大臣ガオ忙シイ中ヲ態、暇

ヲ割カレテオ出デニナリマシタカラ、ドナ

タカニ御讓リ致シテ宜シイガ、幸ヒ商工大

臣ガオ居デニナリマスカラ、アトモウ一點

物品稅ニ付テ伺ヒタイ、只今ノ御説明ハ是

レ以上ハ水掛論ニナリマスカラ私ハ打切ッテ

置キマスガ、之ニ付テ前田房之助君ガ簡單

ナ關聯質問ガアルサウデスカラ、途中デ切

リマシタ時ニ御許シヲ願ヒタイト思ヒマス、

幸ヒ商工大臣ガオ居デニナリマスカラ伺ヒ

マスガ、此物品稅ノ課タ品物ノ中デ輸出ニ

此規定ハ見越引取防止ノ規定デアルカラ、

普通ノ場合ニ持ツテ居ル數量ダケハ免稅シ

テ宜イノデハナカラウカト云フ、斯ウ云フ

御趣旨カラ出テ居ルコトカト存ゼラレマス

ガ、勿論見越引取防止ト云フノハ一ツノ重

要

ルト云フコトガ私ハ望マシイコトダト思ヒ  
マス、ソレデアリマスカラ、大體ノ論トシ  
テハ御説ノ通リデアリマスケレドモ、殊ニ  
商工省ニ於キマシテ、他ノ法規ニ依ッテソレ  
等ニ付テ、或ル統制ヲ加ヘテ居ル物品ニ付  
キマシテハ、唯稅ガ上ツカラト云ツテ、其  
額ダケヲ直チニ消費者ニ轉嫁セシムル前  
ニ、彼等自身ノ經營ニ於テ、モウ少シ「コス  
ト」ヲ節約スル餘地アリヤ否ヤト云フコトニ  
付テハ、十分ニ考慮シタイト思ヒマス、考  
慮シタ結果、ドウシテモ是ダケノモノハ值  
段ノ方ヲ引上ゲナケレバナラスト云フ時ベ  
是ハ已ムヲ得ナイト考ヘテ居リマス

スガ、其點ハ極メテ公正妥當ニ御處置ヲ願ヒタイト思ヒマス、色々各物品ニ付テ註文ガアリマスケレドモ、此際差控ヘマス、唯此課稅ヲセラレルガ爲ニ、業者ニ不當ノ不利益ヲ來サナイヤウニ御處置ヲ願ヒタイト

ソレカラ大藏當局ニ此機會ニ御願ヲシタ  
イト思ヒマスガ、先般御質問申上ゲマシタ  
保險金額ノ問題デアリマスガ、是ハ商工當  
局トモ關聯ヲ致シテ居ルト思ヒマスカラ、  
委員長甚ダ恐縮デアリマスガ、商工大臣御  
出席ノ此際ニ大藏當局カラ御答辯ヲ願ヒタ

イト思ひマス

○松隈政府委員　先般前田サンカラ保険金

## ニ對シマスル相續稅ノ課稅ノ問題ニ付テ御

尋がゴザイマシテ、其中私が一部分ヲ御答

辯致シタノテアリマスガ尙ホ詳シイエト

ニ付キヤシテハ 調査ノ外上御答ハリ云

ス、問題ハ保険ヲ掛けマシタ場合ニ、保険

會社ガ契約者ニ分配金ヲ支拂フ際ニ於キマ

シテ、現金デ拂ツテシマフ、若クハ保険料ト

差引シテ支拂ヲスルト云フコトデアリマス

レバ問題ハナイノデゴザイマスガ、其契約

者ニ支拂フベキ分配金ヲ留保シテ置ク場合

ノ問題デゴザイマス、之ニ付テ約款ヲ調べ

テ見マスト、大體一通リゴザイマシテ、其  
中ノ一つハ、其分配金ヲ以チマシテ拂込済  
保険料ニ代ヘテ、之ニ相當スル保険金ヲ計  
算シ、契約ノ保険金額ヲ増加スルト云フヤ  
ウナ約款デ、保険契約ノ追加保険契約ヲシ  
タヤウナコトニナツテ居ルモノガゴザイマ  
ス、此場合ニ於テハ追加保険ヲ致シマシタ  
ノデゴザイマスカラシテ、其保険金額ヲ受取  
リマスレバ、元來ノ保険金額ト同ジ意味ニ  
於テ保険金額ト申シテ差支ナイ、隨テ保険  
金トシテ相續財産ニ加算サレルト云フ問題  
ガ起ルト思フノデゴザイマス、私ハ先日此  
部分ヲ豫想シテ御答ヲ申シテ居ツタノデゴザイ  
マスガ、前田サンハ其以外ノ場合ヲ想像シ  
テ御尋ニナツテ居ツタヤウデアリマス、調べ  
テ見マスト極ク稀ナ場合デハゴザイマセウ  
ケレドモ、拂込済保険料ニ組込ムト云フヤウ  
ナコトヲシナイデ、單純ニ積立テテ置イテ、  
之ヲ保険金ト共ニ保険金ヲ受取ルベキ者ニ  
支拂フ、斯ウ云フ約款モゴザイマス、此場  
合ニ於キマシテハ保険金ト共ニ保険金ヲ受  
取ルベキ者ニ支拂フノデアリマシテ、保険  
金ト共ニ拂フガソレハ保険金トハ申スコト  
ガ出來マセヌ、隨テ後者ノ場合デアレバ、  
ノデナイト云フコトヲ申上ゲテ置キマス

○前田委員 大體了解致シマシタガ、唯只今ノ御説明ノ各部分デアリマスガ、是ハ實質的ニヘ相違致シテ居ラヌノデアリマス、配當金ヲ或ル期間ニ保険料カラ差引ク場合ト、然ラズシテ積立テテ置イテ、一定ノ期

間ニソレヲ受取ルト云フ場合ト、保険金ニシテ死亡後受取ル、斯ウ云フ三ツノ場合デアリマシテ、實質ハ殆ド相違致シテ居ラヌノデアリマス、然ルニ拘ラズ一方ハ相續稅ガ課カルガ、一方ハ課カラナイ、斯ウ云フコトニナリマシテ、多少其間ニ不公平ヲ生ズル惧ガアラウト思フノデアリマスカラ、

是ハ商工當局トシテ、保險行政ノ上ニ付テモ  
相當ニ御考ニナル必要ガアルノデハナイカ  
ト思ハレルノデアリマスガ、此機會ニ之ニ  
對スル商工當局ノ御所見ヲ伺ッテ見タイト。

存ジマズ

○吉野國務大臣 保險ノ統制ノ成ヘ久同シ  
ヤウナ場合ニハ同ジヤウナ風ニ決メサセル

ノガ宜シイト云フノデ、役所ニ於キマシテ

モーツノ標準ヲ決メマシテ、ソレニ據ラシ

ムル方法ヲ採ツテ居リマス、今御話ニナリマ

シタヤウナ點ニ依リマシテ、約款ノ違フモ

ノモアルヤウデアリマスカラ、其點へ能ク

又考慮シマシテ、若シ御話ノヤウニ公平ノ

原則カラ言ヘバ、同ジヤウナ扱ヲスルノガ

<p>宜シイト云フコトデアレバ、適當ノ機會ニ改メサセルコトガ宜シイト思ヒマス</p> <p>○板谷委員 私ハ昨日大藏大臣ニ對シテ、今回ノ稅制改正案ハ產業界ニ非常ナ惡影响ヲ來スト云フコトニ付テ、其間何等區デアリマスガ、其際商工大臣モ御同席願ッタナラバ大變都合ガ宜カッタ考ヘテ居ッタノデゴザイマスガ、御差支ノ爲ニ御出ガナカッタ、ソコデ此機會ニ簡單ニ御所見ヲ伺ッテ見タイト思ヒマスガ、大體今回ノ增稅案ノ目的ノ一ツトシテ、大藏大臣ハ屢々言明サレテ居ルノデアリマス、即チ銃後ノ國民トシテハ色々々ノ御奉公ノ方法モアルガ、金錢ヲ以テ戰費ヲ調達スルコトニ付テ盡スコトモ國民トシテ考ヘナケレバナラヌ事柄デアルト云フコトヲ言ハレテ居ッタノデアリマス、然ルニ此度ノ改正案ハ、吾々ノ檢討スル所ニ依ルト極メテ不公平デアル、例ヘバ金融資本ニ對シテハ、今回ハ殆ド増稅ヲサレテ居ラヌノデアリマス、二割五分ト言ッテ居リマスケレドモ、事實ニ於テ増稅ハサレテ居ヌノデアリマス、然ルニ一方產業資本ニ對シテハ非常ナル所ノ壓迫ヲ加ヘラレテ、其結果所謂產業資金ニ對スル重大ナ影響ガ來ル、斯ウ私共ハ考ヘテ居ル、然ルニ大藏大臣ハ斯ノ如キ増稅ヲシタカラト云々テ、別ニ</p>
<p>生産擴充ニ對シテモ、或ハ產業界ニ對シテモ萎縮ヲ來スヤウナコトハナイト云フヤウナ、見様ニ依ッテハ強辯ヲサレテ居ルノデアリマスガ、商工大臣ハドウ云フヤウナ御所見デアリマスカ、ソレヲ先づ第一ニ御伺致シマス</p> <p>○吉野國務大臣 稅ヲ課ケレバ、課ケタダケノ影響ハ其課ケラレタ方面ニ於テアルト云フコトハ否ムコトハ出來ナイノデアリマスケレドモ、今回ノ增稅ノ程度ヲ以テシテ、ソレガ日本ノ現在ノ狀態ニ於テ、產業界ガ萎靡スルト云フ迄ノコトハアルマイ、其點ニ付キマシテハ、大藏大臣ト同様ナ見解デゴザイマス</p> <p>○板谷委員 商工大臣、大藏大臣ハ屢々金物ノ見合ヒラ付ケルト云フコトヲ仰シャル、我國ノ現狀ニ於テハ、生産力ノ擴充ヲ依ルト極メテ不公平デアル、例ヘバ金融資本ニ對シテハ、今回ハ殆ド増稅ヲサレテ居ラヌノデアリマス、然ルニ一方產業資本ニ對シテハ非常ナル所ノ壓迫ヲ加ヘラレテ、其結果所謂產業資金ニ對スル重大ナ影響ガ來ル、斯ウ私共ハ考ヘテ居ル、然ルニ大藏大臣ハ斯ノ如キ増稅ヲシタカラト云々テ、別ニ</p>
<p>アリマスガ、又一面ニ於テ是等ノ產業ニ對シテモ出來ルダケノ生産力ノ擴充ヲ圖ラナケレバナラヌト云フコトニ付テ、其間何等區別ヲ付ケル筋合ノモノデハナイ、斯ウ考ヘマス、所謂同一ニ之ヲ取扱ツテ行カナケレバナラヌト思フノデアリマスガ、之ニ對スル御所見ハ如何デアリマスカ</p> <p>○吉野國務大臣 其點ハ私ハ必シモサウ考ヘテ居ラヌノデアリマス、詰リ平和經濟ト違ヒマシテ、戰時經濟ニ入ツテ、國防第一主義ニ、所謂國防經濟ト云フモノノ體制ヲ整ヘナケレバナラヌノデアリマスカラ、其見地ニ於キマシテ、一口ニ生産力ノ擴充ト申シマシテモ、自ラ輕重ノ別ガアルト思ヒマス、國防ノ見地カラドウシテモヤラナケレバナラヌト云フモノハ、最モ力ヲ盡サナケレバナリマセヌケレドモ、ソレカラ緣遠イ方ノモノハ、其爲ニ反射的ニ惡い影響ヲ受ケルト云フコトモ已ムヲ得ナイト思ヒマス</p> <p>○板谷委員 勿論私ハ現在ノ國狀ニ於テ、上ダマシタ通ニ産業界ニ絶對ニ影響ガナイト云フコトハ申上ゲテ居ラヌノデアリマスガ、是ハ所謂程度ノ問題デアリマス、此程度ノモノデアレバ御話ニナリマシタヤウニ日本ノ產業ガ萎靡、萎縮スルノダト云フヤウナコトニハ考ヘテ居リマセヌ</p> <p>○板谷委員 サウ仰シヤレバ意見ノ相違デアリマスケレドモ、私ハ今ノヤウナ狀態併ナガラ國內ニ於ケル有ユル產業ニ對シテ、勿論公債ノ消化ト云フコトモ必要デ</p>
<p>アリマスケレドモ、私ハ今ノヤウナ狀態アルトスレバ、段々萎縮スルト思フ、大體昨日モ大藏大臣ハ或ル程度マデ社債ニ對シ</p>

テハ保護セネバナラスト云フ御話ガアッタ、併ナガラ昨年ノ如ク、御承知ノ通り此金融方面ニ付テ或ル程度マデ課稅ヲシテモ、別ニ大シタ影響ハアリハシナイ、今度ハ課ケテ居ナイ、デアルカラ私ハ負擔ノ公平ヲ期スル上ニ於テ、國民有ユル方面ノ人々ガ御奉公セネバナラスト云フ此重大ノ時期デアリマスカラ、獨リ產業資本ニノミ重稅ヲ課スルト云フ其結果ヘ、今申上ゲマスル通り段々大キナ資本ヲ持テ居ルモノハ、寧ロ負擔ノ輕イ公債或ハ社債ノ方面ニ流入サレ、一面ニ於テハ低額ナ所得ヲ納メル者ガ、反對ニ配當ノ多イ株式方面ニ資本ガ集マルト云フヤウナ結果ニナリツ、アルノガ、現在ノ情勢デアリマス、大體社債ヲ或ル程度マデ保護シナケレバナラヌ必要ガアルト云フコトヲ屢々大藏大臣ガ仰シヤッテ居ルガ、一體産業資金ト云フモノハ株式ヲ主トスル御考デアリマスカ、社債ヲ主トスル御考デアリマスカドレニ重キヲ御置キニナル御考デアリマスカ

○吉野國務大臣 ソレハ兩方ダラウト思ヒマス、詰リ株式ト云フモノハ自己資本デヤル、社債ト云フモノハ他人ノ資本デヤル、産業ヲ行フ場合ニハ、其時ノ金融界ノ狀況ニ依ツテ兩方ヤルノデアッテ、ドチラヲ特ニ重クスル、シナイト云フモノデハナカラウト思ヒマス、唯設備等ヲヤル場合ニ付テ、例ヘバ固定ノ設備ヲヤルト云フ時ニハ、是ハ株式資本デヤル方ガ宜イト思フノデアリマス、ソレカラ又融通スルト云フヤウナ場合ニハ、其時ノ金融界ノ狀況ニ依リマシテ、社債ト云フヤウナ假ニ他人ノ資本デヤルト云フコトモアラウト思ヒマス、要スルニ企業ヲ經營スルニ付テ、ソコニ色々ナ技術的ナ考慮ヲ拂ッテ、其時々ニ依ツテ又事柄ノ性質ニ依ツテヤルベキモノデアリマシテ、一般的ニドチラヲ重クスルノダ、ドチラヲ軽クスルノダト云フ區別ハナイモノト私ハ平素考ヘテ居リマス

○板谷委員 其點ハ現在ノ國債、社債ニ對スル株式ノ標準ノ配當率ハドレ位ガ適當アルカト云フコトハ勿論御調べニナッテ居ランケレバナラヌシ、又ソレモ御考ニナラナケレバナラヌ問題デアリマス、現在ノ公債或ハ社債ノミニ重キヲ置ク結果、株式ノ配當率ガ段々引上ガラレマシテ、從來五分五厘位ガ適當デアルト云フノガ六分ニナラナクテハイカヌ、七分ニナラナクテハイカヌ、八分ニナラナクテハイカヌ、ソレデナケレバ増資ナド出來ヤシマセヌ、又現在ノ株式會社ガ斯ノ如キ重稅ヲ課セラレルコトニナレバ、隨テ配當率ヲ高メナケレバナラヌ、高メタル結果會社ノ内容ガ段々惡クナル、堅金利ノ水準ハ、大藏大臣ハ國債ヲ標準トシテ居ル、又政務次官ノ御答ヲ速記録ニ依テ

○板谷委員 其御考ハ間違ツテ居ルト思フ、社債ト云フモノハ御承知ノ通り、或ル程度マデ發行ニ制限ガアルノデアリマス、產業資本ハ何ト言ツテモ株式ニ重キヲ置カナケレバナラヌ、然ルニ現在ノ此株式界ノ情勢、テ居ル、又政務次官ノ御答ヲ速記録ニ依テ見ルト、預金ノ現在ノ「コスト」ヲ下ゲル譯ニ思ツテ非常ニ心配シテ居リマス、デアリマスカラ國債ノ消化ト云フコトニ付テモ出来ルダケ努力セネバナラヌ、セネバナラヌガ、ト云フモノヲ水準ニ御考ニナッテ居ルノデナイカト思フ、デアリマスカラ、此金利ノ水準ニ對スル所ノ株式ノ値段、ソレガドレ位ガ適當ダトアナタハ御考ニナッテ居リマスカ

○吉野國務大臣 ソレハ色々株ノ種類ニモ依ルダラウト思フノデアリマシテ、ドレ位ガ宜イカト云フコトハ一寸申上ゲ兼ネルト思合ニハ、其時ノ金融界ノ狀況ニ依リマシテ、社債ト云フヤウナ假ニ他人ノ資本デヤルト云フコトモアラウト思ヒマス、要スルニ企業ヲ經營スルニ付テ、ソコニ色々ナ技術的ナ考慮ヲ拂ッテ、其時々ニ依ツテ又事柄ノ性質ニ依ツテヤルベキモノデアリマシテ、一般的ニドチラヲ重クスルノダ、ドチラヲ軽クスルノダト云フ區別ハナイモノト私ハ平素考ヘテ居リマス

○板谷委員 其御考ハ間違ツテ居ルト思フ、社債ト云フモノハ御承知ノ通り、或ル程度マデ發行ニ制限ガアルノデアリマス、產業界ニ付テアルガ、其影響ノ程度ト云フモノニ付テ云フモノガ負擔ノ樂ナ公債社債方面ニ流入スルト云フコトハ、原則トシテ當然ナコトデアリマス、アナタハサウ云フ風ニ御考ニナリマセヌカ

要スルニ程度ノ問題デアリマシテ、此程度ヲ以テシテハ今御話ニナリマシタヤウニ資金ガ全クソチラノ方ニ參ラナイデ、社債公債ノ方ヘバカリ行ツテ涸渴シテシマフト云程ニハ考ヘテ居リマセヌ

○板谷委員 是ハ意見ノ相違デアリマスカラ、モウ是レ以上質問致シマセヌ、併ナガラ今申上ゲマシタ通り、恐ラクハ産業資金ニ缺乏ヲ來シテ段々悪化スルヤウナ情勢ニナルト私共ハ考ヘテ居リマス、更ニ商工大臣ニ御伺ヒシタイコトハ、現在支那事變ニ對シテハ、所謂長期戦ヲ覺悟セネバナラヌト云フコトハ申迄モナイコトデアリマスガ、大體此根本的ノ經濟政策ト云フモノガ、事件初メノ當時ニ於テハ御承知通リ局地解決、不擴大主義ト云フ方針ノ下ニ、應急的ナ、グラ／＼シタヤウナ政策ヲ御採リニナッテ居ル爲ニ、今日行詰リヲ生ジ、更ニ又應急ニ應急ヲ重ネルト云フヤウナ傾向ニ私共ハ思ハレルノデアリマス、例へバ生產統制ヲオヤリニナッテモ、之ニ付テハ綿布ノ如キハ公定價格ハ二百十圓ノモノガ、實際ノ取引ハ四百七八十圓ニナック、幾ラ統制ヲヤッテモ何等效果ガナイ、之ニ付テハ屢々質問ガ繰返サレタコトデアルカモ存ジマセヌケレド

モ、所謂配給統制、消費統制、是マデ徹底シナケレバ、所謂我國ノ現狀ニ於ケル根本經濟政策ト思ハレス、是ハドウ御考ニナリ

○吉野國務大臣 其點ハ全ク私モ同感デア  
リマス、同ジ考ヘデアリマスカラサウ云フ  
方策ヲ今立テツ、アリマス、唯、今御述べ  
ニナリマシタ綿布ノ價格ニ付キマシテハ、  
私ハサウ云フ高イ暗相場モ實際ハアラウト  
思ヒマスガ、ソレハ九牛ノ一毛デ、大多數  
ノ人ハ最高價格ト取極メタモノデ取引サレ  
テ居ルト思ヒマス

申シマスカ、大藏省、商工省ト云フモノガ寄ツテ以テ經濟ニ對スル所ノ根本政策ヲ壯  
際立テル必要ガアルト思フ、ドウモ區々ナ御考デ、大藏省ハ、例ヘバ今回ノ稅制案ノ如キモノモ、金融方面ニノミ重キヲ置カレテ、經濟方面ニ對シテ割合ニ冷淡ト云フカ  
考慮ヲ拂ハレテ居ラナイト思フ、其結果会回ノヤウナ不公平ナ稅制案ナルモノガ出ル  
ノデアリマス、之ニ對シテ差當ツテ或ハ國家總動員ト云フヤウナ問題モアリマスガ、  
大藏省ト商工省ノ間ニ綜合機關ヲ設ケ、或ル場合ニ依テハ民間方面カラモ相當ノ人間ヲ入レル、サウシテ此際根本的ノ經濟政策

○吉野國務大臣 従來モ關係省ト十分連絡ヲ取ッテヤツテ居ル積リデアリマスガ、併シ御話ノ點ハ全ク其通リデアリマシテ、行政ノ事務ガ段々複雜ニナツテ參リマス爲ニ、關係省トノ間ノ連絡ガ取レニクイト云フヤウナコトモゴザイマスカラ、其點ニ付テハ將來モ篤ト注意ヲ拂ヒタイト思ヒマス、而シテ今其目的ノ爲ニ何カ特別ノ機關ヲ作ル必要ガアルカドウカト云フコトニ付キマシテハ、マダソレマデノコトヲ考ヘテ居リマセヌ、併シ物資其モノノ需給調整ヲスルト云フコトニ付キマシテハ、何カ今御話ノヤウ

ナ意味ニ於キマシテ特別ナル組織ヲ作ル方  
ガ宜クハナイカ、斯ウ云フ風ニ考ヘテ、今  
サウ云フ風ナコトヲ相談中デアリマス  
○板谷委員 現在ノ状況ハ私ハ申上ゲマセ  
ヌデモ、先ヅ第一ニ中小工業者ノ如キハ原  
料不足デアル、或ハ貿易業者ト云フモノガ  
消費節減ニ伴フ非常ナル所ノ打撃ヲ蒙ッテ  
居ルノデアルカラ、私ハ何トシテモ大藏省  
方面ト十分ニ連絡ヲ取ツテ、サウシテアナタ  
ハ根本經濟政策ニ付テ折ハ角立案中デアル、  
相談中デアルト仰ツシヤッテ居ルガ、日暮レ  
テ道遠シデ、ソンナ今ノヤウナ御考デハ私  
ハ此難局ヲ切抜ケルコトハ困難ト思フノデ  
アリマス、今申上ゲマス通リ稅制改革ニ付  
テモ、モット產業方面ニ大藏省ノ各位ガ御  
理解ガアツタナラバ、私ハ斯ンナ不公平ナ案  
ハ出ナイノデハナイカト思フ、併シ此點ニ  
付テハ意見ノ相違ニナリマスカラ已ムヲ得  
マセヌケレドモ、是ハモット產業界ノ發達ヲ  
圖ルト云フコトニ付テハ、モウ一段ノ御努  
力ヲ願ヒタイト考ヘルノデアリマス  
ソレカラ此機會ニ伺ヒタイノハ、無論租  
稅ニモ將來關係ノアルコトデアリマスガ、  
私ハ石油國策ニ付テ、一言御伺致シタイ、  
實ハ先日重要鑛物法案ノ委員會ニ於テ、大  
臣ハ御出席ニナッテ居ラナカツタノデアリマス



タイト思ヒマス

○吉野國務大臣 產業上ノミナラズ、社會上、中小商工業者ノ維持發展ヲ圖ラナケレバナラヌト云フ根本ノ趣旨ヘ、從來政府ノ執ツテ居リマシタ方針デアリマシテ、其方針ハ少シモ變リハナイノデアリマス、唯此事變ニ於キマシテ、御話ノ通リニ、殊ニ御指摘ニナリマシタ綿業ナリ或ヘ毛織物工業、是等ニ付テ非常ニ御不自由ヲ掛ケテ居ルト云フコトハ私モ認メマシテ、ソレハ洵ニ申譯ガナイト思ツテ居リマス、唯其點ニ付キマシテハ、平和經濟カラ戰時經濟ニ移ル「カーブ」デゴザイマスカラ、ソレヲ何等ノ混亂ヲ起サズニ何モカモヤルト云フコトハ中々難カシイ點モゴザイマシテ、色々ナ問題モゴザイマス、先程板谷サンカラモ綿絲ノ配給統制ニ付テ、全部ヤラナケレバイカヌデハナイカト云フ御話モゴザイマシタガ、ソレハ私モ同感デアリマシテ、是非ヤリタイ、ヤル方法ヲ今現ニ考究シテ居リマス、一部ダケハ既ニ實施致シマシタケレドモ、マダ一部分ハイカナイ、サウ云フコトヲヤル場合ニハ、御承知ノ通リ中間ノ商人ト云フモノノ問題モ出テ來ル、生産者カラ直グ消費者ノ方へ持ツテ行ク場合ハ要ラナクナルノデスカラ——サウ云フコトハ非常ニ他ノ方

面ニ於キマシテ經濟界ニ及ボス影響モゴザ  
イマスカラ、ソレヤ是ヤヲ考ヘツ、諸ノ事  
ヲ取運ンデ居ルノデアリマシテ、只今ノ所  
ドニ付キマシテ御不自由ヲ掛ケテ居ルダラ  
ウト存ジテ居リマスガ將來ハサウ云フコト  
ノナイヤウニ、先程板谷サンモ仰セラレタ  
通り、綿絲ニ付キマシテモチヤント配給ノ  
組織ヲ徹底的ニヤツテ參リタイ、斯ウ考ヘ  
テ居リマス

リマスノハ内地品ノ綿布以外ノモノデス、サウシマスト愛知縣ノヤウナ產地ト云フモハ、全國ニ散在シテ居ルノデナクテ、或ル一部分内地ノ織物ヲ作ル產地ト云フモハ集團のニアルモノデアリマスガ、其產地ガ毛織物ノ產地デアルカ、或ハ内地向ノ綿織物ヲ作ル產地デアルナラバ、ドノ位ノ程度ニソレガ縮シ行カナケレバナラナイカ、萎縮シテ行カナケレバナラナイカ、是等產業ノ萎縮スル關係業者ニ對シテ大藏省ガ前年通リニ課稅スルナラバ——是ハ大藏省ノ方カラ言ヘバ 稅源ヲ涸渴スルモノデスカラ、之ニ對シテサウ云フヤウナ苛斂誅求ヲシテ行ケバ、將來中小工業ハ立ッテ行カナイ、衰亡スルノデス、此事變下ハ兎モ角トシテ、將來ニ於テハ無論平和產業トシテ活躍シナケレバナラヌモノデアルケレドモ、最早根ガ枯レテシマフ、斯ウ云フ結果ニナルノデアリマス、ソコデ是等ノ中小工業ハ現在ドウ云フ程度デアルカ、私ガ言ッタヤウニ、毛織物ハ昨年原毛ノ輸入二億九千八百餘万圓デ、其内輸出織物トシテ五千万圓デスカラ、殆ド毛織物ノ產地ト言ヘバ内地品ノ製造デス、其内地向ノ產業ニ對シテハドノ位少クセシメル御積リデアルカ、原毛ノ輸入ヲ少クスレバスル程、ヤハリ大藏省ノ

方デハ其事業家ニソダケノ斟酌ヲシテ行カナケレバナラヌ、中小工業ハ個人經營ガ多イノデアリマス、個人經營ノモノハ其年ノ實績ヲ見ズ、前年ノ實績ヲ見テ課稅セラレマスカラ、ソコニ苛斂誅求ガ出大藏省ノ方面デモ相當ナ——法律的ニハ何ト言ヒマスカ、所謂斟酌ヲスルコトガ適當デアル、斯ウ云フ觀點カラ私ハ商工大臣ニ伺ヒタイコトハ、現在毛織物產地ハ皆彼處此處ニト集團的ニナツテ居ルノデス、此產地ハドノ位ニ襄ヘテ行クノカ、此產地ハドノ位ニ繙ンデ行カナケレバナラナイカ、是ハ臨時ノ措置デアルトハ言ヒマシテモ、此事變ノ終了後一箇年ノ間ハ、アナタノ方デ輸入ノ調整ヲ圖ル上ニ於テ原料ノ輸入ヲ十分ニハ御許シニナラヌ譯ニアリマスカラ、斯ウ云フ點カラ本當ノアナタノ御心持ヲ承ッテ、其上デ私ハ大藏省ノ方ニ能ク聽イテ置キタイト思フ、其意味デ御答辯ヲ願ヒマス

業ニ付キマシテモ、輸出ニ關スル限りハ無

制限ニ許ス、内地ノモノハサウハ參ラヌ、

内地ノモノハ之ヲ減ラス、斯ウ云フ立前ヲ

採ダノデアリマス、幾何ノ數量ヲ減拉斯カ

ト云フヤウナ具體的ノ數字ハ、一寸此處デ

申上ゲルノハ適當デナイト思ヒマスガ、唯

其場合ニ、現在ノ毛織物ヲ生産シテ居ル工

場ガ閉鎖スルヤウナ悲運ニナッテハ是ハ困

ル、ソコデ全體ノ數量ハ減ジマシタケレド

モ、若シ國ノ政策ニ欣然參加シテ、他ノ代

用ノ人造纖維ヲ使用スルナラバ——之ニ付

テモ御議論ガアリマセウ、ソンナモノハ使

ヘルトカ使ヘナイトカ云フ御議論ハアリマ

セウガ、併シ現ニソレヲ混ヘテ使ッテ居ル

モノモアルノデアリマスカラ、サウ云フヤ

ウナ方法デ、他ノ人造纖維ヲ混ヘテ使フト

云フコトヲヤツテ貴ラヒマスルナラバ、中小

工業者モ大體ニ於テ成立シテ行ク、唯從來ノ

如ク、工場法ガ適用ニナラナイガ爲ニ非常

ニ長イ時間ヲ働くト云フダケノ原料ハ或ハ

廻ラナイカモ存ジマセヌガ、普通ノ工場並

ミニ、工場法ノ適用ヲ受クル工場、勞働時

間ノ制限ガアル工場ノ程度ニ作業ヲ致ス分

ニハ、人造纖維ト云フモノヲ三割以内混用シテ使フト云フ方法デアレバ、大體ヤツテ行ケル、斯ウ云フ立前デ數量ヲ決メタノデア

リマス、唯是ハ實際ノ景氣、不景氣ニ依ツ

テ、ソレダケ動クカ動カヌカト云フコトハ

別問題デアリマスガ、唯計畫ノ根本精神ハ

ドウ云フコトカト云フ御尋デゴザイマシタ

カラ、ソレダケ申上ゲテ置キマス

○渡邊委員 中小工業ニ對シテ非常ニ御心

配ニナッテ居ルト云フ點ニ於テハ、洵ニ商

工大臣ノ御言葉ヲ感謝シテ承リマシタガ、

ノ原毛ト云フモノハ三分ノ一位シカ輸入セ

ラレヌノデセウ、輸出スルモノニ付テハド

レダケデモ入レルト云フ、所謂「リンク」スル

方法ヲ御採リニナッテ居ル、其アナタ方ノ御

考ニ付テハ、幸ヒ私ハ法律第九十二號ノ方

ノ委員モシテ居リマスカラ、其方デシッカリ

申上ゲマスガ、實際ニ於テ今ヤツテ居ルノ

ハ、配給券ヲ貰ツテ絲ヲ買ヒニ行クノデア

リマスガ、一ノ宮邊デ絲ヲ買ヒマシテモ、

名古屋邊デ絲ヲ賣ヒマシテモ、配給券デハ

自由ニ望ム絲ヲ賣ツテ吳レマセヌ、絲屋ニハ

「ストック」ハアリマセヌ、番手ヲ示サズル

配給券デ、絲ナシデハ仕事ガ出來ナイ、併

シ是ハ現在ダケノ問題デ、將來ハ緩和スル

ト仰シヤルデセウガ、私ハ其事ニモ疑ガア

リマスガ、ソレハサウト致シマシテモ、今

者ニ於テハ、半分以下ノ生產シカ出來ナイ

者ニ於テハ、半分以下ノ生產シカ出來ナイ

者ニ於テハ、半分以下ノ生產シカ出來ナイ

者ニ於テハ、半分以下ノ生產シカ出來ナイ

者ニ於テハ、半分以下ノ生產シカ出來ナイ

者ニ於テハ、半分以下ノ生產シカ出來ナイ

者ニ於テハ、半分以下ノ生產シカ出來ナイ

ウガ、租稅ノ委員會デアルカラ略シマス、此儘デ行クト中小工業ハ滅亡デアリマス、

○吉野國務大臣 折角ノ御言葉デアリマス

カラ、此機會デ申上ゲルノハドウカト思ヒ

マスケレドモ、精神ニ變リハナイノデス、

ヤウナ御話デアリマシタケレドモ、是ハ總

テ同業者ノ代表ノ方々ガ決メタ方法デアリ

マス、同業者ノ方々ガ此方法ガ一番宜カラ

ウト云フノデ決メタ方法デアッテ役人ガ決

ルド云フコトデアルガ、原料關係カラ言ツ

テヤツテ行ケル道理ガナイ、又現在ノ配給方

法ニ付テハ、幸ヒ私ハ法律第九十二號ノ方

ノ委員モシテ居リマスカラ、其方デシッカリ

申上ゲマスガ、實際ニ於テ今ヤツテ居ルノ

ハ、配給券ヲ貰ツテ絲ヲ買ヒニ行クノデア

ラ改メマセウ、同業者ノ人ト雖モ、平和經

濟カラ戰時經濟ニ「カード」ヲ切ルノデアル

カラ、多少ノ混亂ハ生ジマセウ、ソレガ惡

イト云フナラ私ハ決シテ固執ハ致シマセウ、

現在ノ方法ガ惡イト云フ申出ガアレバ、之

ヲ改メルニ奢カデハアリマセヌ、役人デ決

メテ之ヲ押付ケルト云フヤウナ考ハアリマ

セヌ、同業者ノ方ト一緒ニナッテ此時局ヲ切

抜ケヨウト云フ意味デ、吾々ノ方モアナタ

方ノ代表者ニ聞イテ決メタノデアリマス、

愛知縣ニ於テ御話ノヤウナコトガアリマシ

タナラバ、工業者ノ方デ初メ豫想シナカツタ

ヤウナコトガアッタノデアリマセウ、ダカラ

サウ云フ點ニ於テ改メヨト云フコトデアレ

バ改メルニ決シテ奢カナルモノデハアリマ

セヌ、中小工業ノ組織ハ日本ノ産業カラ言ヘバ、社會的階級ト云フヨリモ、產業上此組織ガ一番宜イノデハナイカト考ヘテ居リマス、或ル場合ニ於テハ、大工業ヨリモ優ッテ居ツテ、世界ノ市場ニ雄飛スルニハ此組織ガ一番宜イノデハナイカト考ヘテ居リマス、デアリマスカラ、是ノ根ヲ枯ラスト云フヤウナコトハ夢ニモ考ヘテ居リマセヌ、今御話ノヤウナ點ニ付テ此席デ申上ゲマスノハ、皆様ニ恐入リマスケレドモ、折角ノ御言葉デ、又如何ニモ中小工業ヲ無視シテ其根ヲ枯ラスヤウナ方策ヲ採ツテ居ルカノ如キ御叱責ガ當業者ノ方カラモアリマシタカラ、商工省ハサウ考ヘテ居ラスト云フコトヲ申上ゲタノデアリマス

○渡邊委員 御配慮ノ點ハ感謝致シマス、此機會デスカラ特ニ申シマセヌガ、私ノ伺フノハ現狀カラ言ヒマシテ、是等ノ中小工業者ハドノ位ノ仕事ガ出來ルノカ、所謂是ハ課稅標準トナルノデス、デスカラ私共此處ニ力ヲ入レテアナタノ御所見ヲ承ッテ置キタイト思フノデス、是ガ半分シカ仕事ヲスルコトガ出來ナイ、然ルニ前年通り課稅スル、過去ノ實績ガ大藏省ノ方針ダト言ヘ大臣ニ伺ヒタイノデアリマス、アナタノ良

○吉野國務大臣 先程モ申上ゲマシタ通り、毛ヲ幾ラ「カット」スルカト云フコトハ申シ兼ネマスケレドモ、大體政府ト皆様ト御相談シテ決メタ通リニ、現在ノ毛織物工業ハ三割以内他ノ人造纖維ヲ混ヘテ使フト云フ立前ニシテ、サウシテ勞働時間ヲ從來ノヤウニ工場法ノ適用ガナイカラト云ウテ、十五時間モ十六時間モ効クダケノ分量ハオ廻シスル譯ニハ行キマセヌガ、工場法ノ適用ヲ受ケル工場並ミニ現在十時間ナラ十時間、十一時間ナラ十一時間工場ガ動ク、其間、十時間ナラ十一時間工場ガ動ク、其程度ノモノハオ廻シスルト云フ根本ノ計畫ニナツテ居リマス

○渡邊委員 愛知縣ノ工場ハ——是ハ内務省ニ御聞キニナレバ分リマスガ、愛知縣ノ工業家ハ一番嚴格ニヤツテ居ル、ソンナコトハ少シ御言葉ガドウカト思ヒマス、ソンナ十五時間モ、十三時間モ絶對ニ効カセマセガ、重ネテ申上ゲマス、現行法ノ立前ト致シマシテハ、前年一月一日以前ヨリ營業ヲテ圓滑ニ行カナイト云フ具體的ノ問題ハ、御相談シテ直シマセウト斯ウ申上ゲタノデス

○渡邊委員 アナタニ抗辯スル譯デハナイノデスガ、認識ガ無サ過ギル、電力取締規則ガアリマシテ、アナタノ仰シヤルヤウニ現在ドンナ二三臺ノ工場デモ時間ハソンナニ延長ヘ出來マセヌ、結局現在ノ情勢カラ言ヘバ、愛知縣ノ織物工場ハ半分シカ仕事ラバ、半分シカ仕事ガ出來ナイ「ステープ

心ノ見ルガ儘ニ、ソレハ成程君ガ言フ通りカモ知レナイト答辯セラレテモ宜イ、或ル度——何割位減ツテ居ルト云フ見透シハ、此處デ御發表ニナツテモ宜イト思フノデス、ドウカ率直ニ御答辯ヲ願ヒマス

○吉野國務大臣 私ノ言葉ガ悪カッタノデスガ、私ノ申上ゲタノハ工場法ノ適用ヲ受ケナイ小工場ガ澤山アル、其方ガ私ハ問題ト思ヒマス、其小サイモノガ今迄ハ工場法ノ適用ヲ受ケテ居ラナイノデアリマスカラ、十五時間モ十六時間モ現在ヤツテ居リマス、サウ云フ小サイモノデモ十時間位ノ作業ノ出来ル程度ニ考慮ヲ拂ツテ、全國的ニ原料ノ配給ヲヤツテ居ル、斯ウ云フコトヲ申上ゲタノデアリマス、ソレデスカラ愛知縣ニ付テノ今ノ配給ノ方法ニ付テ、何カ不都合ガアツノデアルト思フノデアリマスガ、大藏大臣カラ御答辯ヲ願ヒマス

○賀屋國務大臣 政府委員ヨリ答辯致セマス

○大矢政府委員 此點ニ關シマシテハ昨日詳シク御答致シテ置イタ筈デゴザイマスガ、重ネテ申上ゲマス、現行法ノ立前ト致シマシテハ、前年一月一日以前ヨリ營業ヲヤツテ居ル者ニ對シテハ、前年ノ實績ニ依ツテ課稅スルヨリ外ナイノデゴザイマス、但シ本年殊ニ今御話ノアリマシタ毛織物業等ニ付キマシテハ、特殊ノ事情ガゴザイマスルガ、斯ルモノニ對シテ豫算課稅ヲヤツテ行クコトハ、現行法ノ下デハ勿論許サレテ居マセヌガ、假ニ豫算課稅ヲ爲シ得ルモノト假定シテ考ヘテ見マシテモ、是モ昨日詳シク申上ゲマシタ通り、今後ノ見透シ如何ハ

人ニ依ッテ判断ガ非常ニ區々ナルノデゴ

ザイマス、課稅ノ實際ニ於キマシテモ之ヲ

如何ニ見ルカト云フコトハ、非常ニ困難ナ

事態ニアルノデゴザイマス、隨ヒマシテ原

則ニ則リマシテ、此五月ノ調査委員會ニ於

キマシテハ、前年ノ實蹟ニ依ッテ課稅スル、

但シ營業收益稅ノ納期ハ八月ト十一月デゴ

ザイマスノデ、其八月カラ十一月ニナッテ業

況ガ著シク不振デゴザイマシテ、到底納稅

ニモ堪ヘラレナイト云フヤウナ場合ニハ徵收

猶豫ノ措置ヲ執リマシテ、サウシテ十二月

ヲ過ギマシテ翌年ノ一月ニナリマシタナラ

バ、減損更訂ノ手續ヲ致スコトモ出來マス

シ、又今度ノ臨時措置法ニ依ッテ、其者ノ十

一年以前、三箇年ノ實蹟ニ對シマシテ、二

割五分以上ノ收益ニ減少ガアッタ場合ニハ、

ヤハリソレドモ所定ノ營業收益稅ノ輕減ヲ

致スコトガ出來ルノデアリマス、サウシテ

之等ノ場合ニ、若シモ八月ノ納期、十一月

ノ納期ニ納メタ稅金ガ過當ニナッテ居ル場

合ハソレヲ返ス、斯ウ云フ風ニナリマシテ、

實際ノ執行ニ當リマシテハ寧ロ其方ガ官民

ノ紛議モナク、却テ圓滑ニ運ンデ行クノデ

ハナカラウカト存ジテ居ル次第アリマス、

執行ニ當リマシテハ十分留意シテ、實性ニ

即スルヤウニヤッテ行キタイト考ヘテ居リ

マス

○渡邊委員 大臣ノ御答辯ヲ伺ヒタイノデ

アリマス、只今ノヤウナ御答辯デ所謂減損

更訂ヲスレバ宜イチヤナイカ、一言ニシテ

言ヘバサウ云フ御答辯デス、國際收支ノ適

合ヲ圖ル場合ニ於テ、國策ニ依ッテ其仕事ガ

半分ニナッタ、事業ハ衰退シタ、ソレニ前年

ノ標準ヲ以テ課稅スル、ソレハヤッテ見ナケ

レバ分ラスト言フケレドモ、モウ既ニ輸入

ヲ少クサシマスカラ分ツテ居ルデハナイカ、

斯ウ云フモノニ對シテハ豫メ斟酌スルノ意

思アリヤ否ヤ、大臣ヨリ御答辯ヲ願ヒマス

○賀屋國務大臣 現行法ノ下ニ於キマシテ

ハ政府委員ノ申上ゲタ通リデアリマス、之

ヲ明白ニ今年ノ豫算率ニ依ルト云フコトハ、

思アリヤ否ヤ、大臣ヨリ御答辯ヲ願ヒマス

○渡邊委員 私ハ満足シテ止メタノデハア

リマセヌ、遠慮シテ止メタノデス(笑聲)

○高橋委員長 ソレデハ岡本君

申上ゲタクテモ申上ゲ得ナイノデアリマス、

サウ云フ點ヲ考慮致シマシテ、營業收益稅

ノ減稅ノ法律案モ出シマシタヤウナ次第デ

アリマス、實情ハサウ云フ風ニ致シマシテ

十分留意シテ參ル、此程度デ御勘辨ヲ願ヒ

マス

○渡邊委員 結局斟酌シテヤル、斯ウ云フ

コトデスカ

○賀屋國務大臣 今申上ゲマシタ所デ御諒

解願ヒマス

シタ、私ハモウ是デ宜シウゴザイマス

ガ達フト云フ關係ハアリマス、入場稅ノ如

キハ恐ラク現在ノ一割トカ云フモノヲ撞球

ラスル人ガ拂ニテ居リマス、達ヒマスカ——此私

ノ見解ハ達ヒマスマイト思ヒマス、サウス

ルト觀察點ヲ異ニシテ、或ハ横カラ、或ハ

縦カラ、或ハ上カラ、或ハ下カラト、諸方

カラ課ケラレル、是ガ重リ重ツテ大キナモノ

ニナル、勿論不動產ヲ持ツテ居ル者ニハ地和

ガ課カル、ソレガ又所得稅ノ基本ニナルト

云フヤウナコトデ、他ノモノニモ、斯ウ云フ

コトハ無論アルコトハ思ヒマスルガ、其邊

ニ付キマシテ、ソコハ三重ナリト云フコト

ヲ御含ミデ此物品稅、入場稅等ハ出來マシ

タモノデスカ、餘リ見方バカリ變ヘテ、諸

ノ方面カラ觀察シテ行カレルト重イモノト

ナル、是ハ當業者ハ非常ニ苦痛ナリト唱

テ居ル所デス、此邊ニ對シテノ御見解ハド

ウデスカ

○賀屋國務大臣 今ノ岡本サンノ御尋ニス

ガ、此際撞球臺ニ物品稅ガ課リ、又撞球場

ノ入場者ニハ入場稅ガ課リマス、洵ニ氣ノ

毒デアリマスルガ、御話ノアリマシタヤウ

ニ、物品稅、入場稅以外ノモノハ既ニ課ツテ

居リマシテ、其狀態ノ下ニ營業ガアル譯デ

アリマシテ、此際ヤハリ他ノ品物トノ權衡

○岡本委員 餘り諄クハ申上ゲマセヌ、更ニ物品稅ノ中ノ化粧品稅ハ齒磨粉、石鹼ニハ課ラナイガ、洗粉ニハ課ルノデス、ドウモ吾々素人デ考ヘマシテ、何ガ故ニサウナルカト云フコトガ分ラナイ、又或ハ私ノ誤解カモ知レマセヌガ、聞ク所ニ依リマスト、白髮染ニ課ル、白髮染ノ如キハ化粧品ト云フヨリモ寧ロ藥品デアル、其内容ニハ劇藥ナドガ幾ラモ加ヘラレテ居ルサウデス、自髮染ハ藥品ナリヤ化粧品ナリヤト云フコトハ、私專門デナイカラ知リマセヌケレドモ、細カイコトヲ申シマスガ、斯様ナコトガアリマスガ、此邊ハ如何デセウカ

○大矢政府委員 化粧品ノ中ニ石鹼、齒磨粉ヲ包含セシメルカドウカト云フコトニ付テハ、隨分研究ヲ重ねタノデゴザイマスガ、結局保健衛生ト云フ方面カラモ相當考慮シビノ課稅カラハ除外スルコトニ致シマシタ、洗粉ハ多少其程度ガ違フノデアリマス、石鹼ト同様ニ扱ヘナイト存ジタ次第デアリマス、白髮染ニ付テ御話ガアリマシタガ、白髮染ノ中ニハ一部劇物ヲ使用シテ居ルモノガアリマスノデ、藥劑師等デナケレルヲ得ヌヤウニ考ヘテ居ル次第デアリマス

モ、是モ買フ人ハ一般大衆誰デモ構ハヌト云フコトニナリマシテ、又其用途カラ致シナイカ(笑聲)之ヲ課稅外ニ置ク必要モナカラウト、斯ウ存ジテ居ル次第アリマス○岡本委員　白髮染ノコトニ付キマシテ、年寄ノ化粧品ト申サレマシタガ、尙ホ專門ノ知識ヲ持ツテ居ラレマスル、委員ノ田村君カラ奉聯シテ少シク伺ヒタイト云フコトデスカラ、此際御許シ願ヒタイ○高橋委員長　田村君○田村委員　白髮染ノコトニ付テ、簡単ニ御尋シタイト思フノデス、年寄ノ化粧品ト云フコトニナッタヤウデスガ、サウシマストト、之ヲ贅澤品ト云フヤウナ頭デ——私ハ是ハ賣藥ニ入ルベキモノダト思ヒマス、先程ノ御話ノ通リニ劇毒物取締規則ノ適用ヲ受ケテ居ル劇藥ガ入ッテ居ル、ソコデ藥劑師若クハ藥種商デナケレバ之ヲ賣ルコトガ出來ヌト云フ風ニナッテ居ルノヲ、化粧品ト云フ形式的ナ點カラ言ツテ、贅澤品ト見ラレテ課稅サレタノデハナイカト思フノデスガ、白髮染ハ一體ドノ位ノモノデアルト云フ觀點ニ立ツテ居ラレルノカ、其點ヲ伺ヒタイ○大矢政府委員　化粧品ト申シマスルト稍

贅澤品、奢侈的ニ聞エマスガ、此中ニ網羅シタモノガ悉ク奢侈的ノモノトハ申上ゲルモアリマスヤウニ、先ヅ比較的擔稅力アル方面デ消費スルモノダト存ズル次第デアリマス、ソレカラ白髮染ハ寧ロ賣藥ニ屬スルモノデハナイカト云フ御話デゴザイマスガ、是ハ現在賣藥部外品トシテノ取締ヲヤッテ居ルモノデアリマス、サウシテ之ヲ購入スル者ハ、先程申上ゲタ通り、誰デモ買ヒ得ル、斯ウ云フコトニナツテ居リマス

○田村委員 部外品デ誰デモ買ヒ得ルト云フコトデアリマスレバ、賣藥デモ買ヒ得ルノデスガ、賣藥ノ中デモ擔稅力アリト云フモノハ——若シ白髮染ヲ比較的擔稅力アリト見テ、贅澤品ト云フ風ニ御考ニナルナラバ、賣藥ノ中ニ面炮、雀斑ヲ取ル「ユキワリミン」トカ、或ハ美顏水トカ、或ハ又皺ヲ伸バズ「ミラカチ」錠ト云フモノ、是モ課稅ヲシナケレバナラスト云フコトニナツテ來ル、ソレデ是ハ區分ヲハッキリシナイトイケナイト思ヒマス、白髮染ニシマシテモ、一般大衆ガ使ツテ居ル白髮染ハ、御承知ノ通リ「バラフェニーレンヂアミン」劑ヲ主成分トシテ居ルモノデアリマシテ、安イノハ

リマス、白髪ヲ染メルカラ必シモ贅澤ダト云フ譯ニハ行カナイト思ヒマス、人間朝起キテ顔ヲ洗フノハ贅澤ダト云フノト同ジヤウナ議論ニナツシマヒハセヌカト思フ、極端ナ議論ヲシマスト、サウ云フコトニナリマス、二十錢カラ三十錢位デ賣ツテ居ル此「バラ」製染毛劑、斯ウ云フ點ニ御考ヲナサレズニ、贅澤ナ美容師ノ所デ使ツテ居ル一回二圓三圓ト云フヤウナ點ノミヲ捉ヘテ、課稅物件トシテ御取上ニナツテ、其下ニ養毛料、脂取料——斯ウ云フモノハ贅澤品ト見ラレマスガ、斯ウ云フモノト一緒ニ引括メテ茲ニ入レラレタノハ、少シ輕卒デハナイカト思ヒマスガ、大衆的ナ二十錢三十錢ノハ、非常ニ細民階級ガ使ツテ居ルト云フ點ハ御調査ニナツテ居ラレマスカ、如何デアリマスカ

ガ出テ來ルト云ツタヤウナモノモザイマス、是等ニ付キマシテ課稅最低限ヲ設ケルト云フノハ全ク實行困難デゴザイマス、總テ此製造物品ニ付テハ課稅最低限ヲ設ケナイ、斯ウ云フコトニ御承知ヲ願ヒタイト思ヒマス

○田村委員 モウ一ツ承リタイノヘ、先程モ政府委員ノ御話ノ中ニ、劇毒物ノ入ッタ、所謂「バラフエニーレンヂアミン」ヲ入レタモノト、其外全ク贅澤品ト云フノガアル、併シ其區別ハ全ク難カシイトシテモ、一般大衆ハ一回ノ使用料二十錢カ三十錢位ノモノヲ使テ居リマスシ、是ハ「バラフエニーレンヂアミン」ヲ主成分トシテ居ルモノデ

アリマスカラ、先刻私ガ御尋シタ點カラ判断シテ、之ヲ除外シテシマフコトガ、藥トシテ扱ハレテ居ル點カラ申シマシテモ、又賣藥ガ今日特ニ是ハ大衆的ノ意味カラ除外サレテ居ル物品課稅ノ意味カラ言ツテモ、必要デハナイカト思フ、ソレカラモウ一ツ「バラ」製ノ染毛劑ハ、現ニ此處ニ課稅對象ニナツテ居ル所ノ毛皮、兎ノ襟卷、靴、鞄ニ使フ革、斯ウ云フモノヲ黒クスル爲ニ、此皮革染剤ヲ使テ居ル、サウシテ滿洲デ兎ノ毛ヲスルノニ使テ居ル、隨て是ガ今後ノ日本ノ

工業用ニ、產業上ニ非常ナ發達性ヲ持ッテ居ル品物デアルコトヘ、私共ハ能ク承知シテ居ルノデアリマスガ、更ニ今度ハ北支ノ方ノ開發ニ當ッテ、毛皮トカ、兎ノ毛ト云フヤウナ方面ニハ非常ナ關係ヲ持ッテ來ルト思ヒマス、隨て產業的ノ用途ヲ持ッテ居ルト云フ今後大イニ發展サセナケレバナラヌト云フヤウナ重要性ヲ一面ニ持ッテ居リマスガ、其點ハ御調査ニナツテ居リマスカ

○大矢政府委員 此「バラフエニーレンヂアミン」製劑ハ先程モ申上ゲタ通り部外品ニナツテ居リマス、ソレカラ革類ニ使用スル場合ニハ、勿論此物品稅ノ課稅ヘ受ケナイノデゴザイマス

○大矢政府委員 ソレハ發賣ノ時課稅致シマス

○岡本委員 私ハ大體是デ質問ヲ打切ラウト思ヒマスガ、最後ニ議事進行トシテ御尋致シ

○岡本委員 選考ナリマス、議事進行トシテ御尋致シ

マスノヘ、要求致シマシタ資料ノ中デ、餘程モウ出揃ヒマシタガ、マダ其中デ出ナイ

分ガ残ツテ居リマスルガ、委員會モ大分回ヲコトガアリマス、議事進行トシテ御尋致シ

マスノヘ、要求致シマシタ資料ノ中デ、餘程モウ出揃ヒマシタガ、マダ其中デ出ナイ

分ガ残ツテ居リマスルガ、委員會モ大分回ヲコトガアリマス、議事進行トシテ御尋致シ

タノガ、例ノ佛壇、佛具ノコトデアリマシタ、アレハ御趣旨ハ能ク分リマシタ、更ニ是ト餘程似タモノデ、金ノ糸ヤ金ヲ大分使ヒマシタモノデ、法衣ト言ヒマスカ、オ坊

サンノ衣デアリマス、是ガ大分關係ガアリマス、此御扱ヒハドウ云フ風ニナリマスカ、神官モ同ジコトデアリマス

○松隈政府委員 昨日モ御話申上ゲマシタ

ヤウニ、金又ハ白金ヲ用ヒタル製品ト云フ中カラ、今回ハ北支事件特別稅法實施ノ狀況ニ鑑ミマシテ、金箔、金糸、金粉、金液等ヲ除イテ實施シタイト考ヘテ居リマスノ

○岡本委員 入場稅ノコトデ一點ダケ簡單ニ御尋ヲ致シマス、二千六百年ヲ期シテ日本萬國博覽會ト云フモノガ行ハエルコトニナリマシテ、割増附ノ入場券ガ既ニモウ發

賣ニナツテ居リマスカドウカ、ナラヌニシテモ、近々ニモウ發賣ニナルヤウデアリマス、斯モ中々難カシイモノニ付キマシテヘ、御要求ニナツタ御方々ニ直接御諒解ヲ得タモノモゴザイマスガ、御言葉ノ昨日アタリ出タモノデマダ殘ツテ居ルモノガアリマスガ、明

朝マデニ御届ケスルヤウニ致シタイト思テ居リマス、左様御諒承願ヒマス、又大變遅タコトハ重ネテ謝ッテ置キマス

○岡本委員 私打切ルト申シマシタガ、モウ云フ風ナ御扱ヒニナリマスカ

百年ガ來マシタ時ニ、愈、博覽會ヲ開クトシテ、其時ニ此入場稅ヲ御取リニナルカ、ドリマスカ、發賣ノ時ニ、即チ金ノ入ッタ時ニ

入場稅ヲ御取リニナリマスカ、或ハ二千六百年ガ來マシタ時ニ、愈、博覽會ヲ開クトシテ

テ、其時ニ此入場稅ヲ御取リニナルカ、ドリマスカ、發賣ノ時ニ、即チ金ノ入ッタ時ニ

ウ云フ風ナ御扱ヒニナリマスカ

○岡本委員 私ハ大體是デ質問ヲ打切ラウト思ヒマスガ、最後ニ議事進行トシテ御尋致シ

○岡本委員 私昨日ノ委員會ノ一番最後、テアリマシタカ、丁度大藏大臣ノ御見エニナラヌ時ニ、其時間塞ギトシテ御尋致シマシタノガ、例ノ佛壇、佛具ノコトデアリマシタ、アレハ御趣旨ハ能ク分リマシタ、更ニ是ト餘程似タモノデ、金ノ糸ヤ金ヲ大分使ヒマシタモノデ、法衣ト言ヒマスカ、オ坊

サンノ衣デアリマス、是ガ大分關係ガアリマス、此御扱ヒハドウ云フ風ニナリマスカ、神官モ同ジコトデアリマス

○太田政府委員 大變資料ガ遲レマシテ申マス

○岡本委員 念ノ爲ニ——ソレハ詰リ祭祀、  
宗教ニ使ハレル物ハ、佛壇佛具ト同ジヤウ  
ニ、神官僧侶ノ法衣、斯ウ云フモノニハ課ラ  
ナイ、斯ウ解釋シテ宜シウゴザイマスカ。  
○松隈政府委員 仰シヤル通りデゴザイマ  
ス、祭祀、宗教ニ用ヒル物ハ課税外、ソレ  
カラ根本トシマシテ、金ヲ用ヒルト云フ時  
ニ、從來ハ金箔、金綵、金粉、金液ヲ用ヒ  
タル物マデヲ含メテ居リマシタケレドモ、  
今度ノ勅令デ詳シク書ク時ニハソレヲ除ク  
ト云フ風ニシテ、最初カラ其部分ハ課税外  
デアルト云フコトヲ明ニシテ參リタイト云  
フコトヲ考ヘテ居リマス

○大矢政府委員 岡本サンノ御質問ノ終リ  
マス機會ニ、過日岡本サンカラ御尋ノアリ  
マシタ所得稅法中改正法律案ノ第五十四條  
ノ二ノ規定ト、非辯護士取締法トノ關係ニ  
付テ、此際前會ノ答辯ヲ補足シテ申上ゲタ  
イト思ヒマス、昭和八年法律第五十四號法  
律事務取扱ノ取締ニ關スル法律ノ第一條ニ  
「辯護士ニ非ザル者ハ報酬ヲ得ル目的ヲ以  
テ他人間ノ訴訟事件ニ關シ又ハ他人間ノ非  
訟事件ノ紛議ニ關シ鑑定、代理、仲裁若ハ

和解ヲ爲シ又ハ此等ノ周旋ヲ爲スヲ業トス  
ラザル者ハ報酬ヲ得ル目的ヲ以テ他人間ノ  
訴訟事件竝ニ非訟事件ノ紛議ニ關係スルコ  
トヲ業トスルコトハ出來ナイ、斯ウ云フコ  
トニナツテ居ルノデゴザイマス、ソレデ所得  
稅法ノ所得ノ申告、扶養家族ノ控除ノ申請、  
或ハ課稅標準決定後ノ審査ノ請求、訴願ト  
云フノハ、此法律デ規定シテ居ル訴訟事件  
及ビ非訟事件云々ニハ包含致シマセヌ、隨  
ヒマシテ辯護士以外ノ人デモ今申シタ事項  
ニ付キマシテ、報酬ヲ得テ業トシテ之ヲヤ  
ルコトハ差支ナイノデゴザイマス、唯行政  
訴訟ハ辯護士デナケレバ致スコトハ出來ナ  
イ、是ハ前ニモ申上ゲタ通りデゴザイマス  
ガ、現在辯護士ニシテ所謂調査委員ヲヤッテ  
居ラレル人ガ極メテ少數デハゴザイマスル  
ガアリマスノデ、此所得稅法中改正法律案  
ニ斯様ニ規定致シマスルコトモ、敢テ不必  
要デハナイノデゴザイマス、ソレカラ今回  
ノ改正案ハ、課稅標準決定後其決定ニ對ス  
ル審査ノ請求、訴願、訴訟等ニ付キマシテ、  
調査委員ガ自分ノ所屬スル調査委員會ノ決  
議ヲ經タモノニ對シテハ、業トシテ是等ノ  
コトニ關興スルコトハ出來ナイト云フ風ニ  
規定スルノデゴザイマス、是ハ前ニモ申上

自分ノ意見ヲ言フ機會ガアルノニ、決定後ニ審査請求、訴願、訴訟ト云フコトヲヤル、是モ理論上ハ毫モ妨ダナイヤウデゴザイマスケレドモ、各地ノ實例ヲ見ルト隨分弊害ガゴザイマシテ、調査委員會ニ於キマスル決議ノ狀況モ能ク知ズテ、納稅者ノ所ニ行ツテ審査ノ請求ヲ出シ給へ、訴願ヲ出シ給ヘト言ツテ澤山サウ云フ事件ヲ扱ヒマシテ、中ニハ隨分不當ノ報酬ヲ得テ居リ、納稅者モ却テ迷惑シテ居ルト云フ事例モ澤山ゴザイマスノデ、此際トシテハ少クトモ此程度ノ規定ハ是非設ケル必要ガアル、斯ウ存ジタ次第アリマス、唯是ハ課稅標準決定後ノ事柄ニ付テ禁止スルノデゴザイマシテ、課稅標準決定前ニ納稅者ノ爲ニ所得ノ申告、扶養家族ノ控除ノ申請、其他色々相談ニ與ルコトハ勿論差支ナイノデアリマシテ、或ル地方ニ於キマシテハ所得ノ申告時期ニ於テ商工會議所等ニ於テ調査委員ニ囑託シテ色々是等ノ事項ヲ扱ツテ貰フ、其爲ニ或ル程度ノ報酬モ支拂ツテ居ルト云フ向モアルサウデゴザイマス、斯ルコトハ此度禁止スル趣旨デハゴザイマセヌノデ、此點併セテ此機會ニ御諒解ヲ得テ置キタイト存ジマス

○高橋委員長 重ネラレル思ヒマスカラ、今日ハ此程度ニシテ、アトハ他日ニ……

○岡本委員 一寸モウ一言……

○高橋委員長 一言ト云フト又他カラ一言ガアリマスカラ、此程度デ御預ケ願ヒタイト思ヒマス、又重ネテ一つ御質疑ヲ願ヒタイ

イ

○西村委員 先刻ノ法衣ノ問題ニ關聯シテ一言……

○高橋委員長 ソレデハ西村君、簡單ニツ御願致シマス

○西村委員 先程ノ大藏當局ノ御答辯ニ依リマシテ、法衣ト法服、此二ツハ貴金屬ヲ用ヒタル製品デハアルガ、今回ノ物品稅ノ第三十八條ノ第一種甲ノ三ノ中ニ含マツテ居ラナイト云フコトハ能ク分リマシタ、唯、現行北支事件特別稅法ノ施行規則ノ第三條ニ、全體ノ價格ノ三分ノ一未満ト云フヤウナコトガ書イテアルノデスガ、之ニ引掛ルノカドウカ、此點ニ付テハッキリ御答辯願ツテ置キタイ、即チ是ハ國民精神善導ノ上カラ、即チ傳來ノ神佛信仰ノ宗教ノ上カラ免稅サレルノデアルカ、ソレデアレバ問題ハナイノデアリマスガ、ドウ云フ意味カ、明確ニ其理由ヲ伺ヒタイ

○松隈政府委員 只今ノ御尋ノ神官、僧侶ノ服装ノ問題デゴザイマスガ、先程モ申シマシタ通り、金若クハ白金ヲ用ヒタル製品ノ中カラ金箔、金絲、金粉、金液ヲ用ヒタルモノハ除クト勅令ニ書キタイト存ジテ居リマス、隨テ問題ノ金絲デ縫ヲ致シマシタ服地ノ如キモノハ、今度ハ最初カラ課稅外ニ置カレルノデゴザイマス、隨テ三分ノ一ノ問題ハ起ラナイ、現在ノ北支事件特別稅法中ノ物品特別稅ニ於キマシテハ、金箔、金絲ヲ用ヒタルモノハ、金若クハ白金ヲ用ヒタル製品ノ中ニ入ッテ居リマスノデ、ソコデ少シ位用ヒタルモノハ、課稅スルト云フコトハ不權衡デアルト云フヤウナコトカラ、三分ノ一未滿云々ト云フヤウナ規定ヲ置キマシテ、ソレヲ取扱ッテ居ルノデスケレドモ、其取扱ノ實情ガ實際ニ不公平、不適當ナ點モアリマスノデ、今度ヘ其點ヲ考慮シテ、最初カラ、今申上ダタ金箔、金絲、金粉、金液ヲ用ヒタル物品ヲ除キマスカラ、問題ハ解消致シマス

○高橋委員長 太田政府委員カラ一言何カ

御發言ガアルサウデス

○太田政府委員 午前ノ終リノ時ニ堀内サン、山川サンカラ葡萄酒ニ付テ御質問ガアリマシテ、更ニ委員長カラソレニ附加ヘラ

レタコトガアリマシタ、ソレニ對シマシテコチラカラ其時申遲レタコトガアリマシタノデ、コチラノ立前ダケヲ一應申上げテ置キマス、生産者ノ立場、農村ノ副業ト云フ立場カラノ御意見ハ申ス迄モナク其通リト思ヒマス、政府ガ今回ノ案ヲ作リマシタ譯ハ、消費者ト消費稅ト云フ立前カラ見マシタノデゴザイマシテ、如何ニモ酒ノ方ニ一方ニ五十圓カラノ稅ガ課ルヤウニナリ、又酒精分モ十二度カラアルヤウナモノガアルト、廣ク考へマスト「ラムネ」ヲ飲ンデモ清涼飲料稅ガ課ルト云フヤウナコトモ、負擔平衡ノ關係カラ考慮セネバナラヌト思フノデアリマスガ、現在葡萄酒ニハ消費稅ハ課ツテ居ナイノデアリマス、斯ク消費者ノ側カラ考ヘテ此案ヲ作ッタ譯デアリマシテ、色々御研究ナサル上ノ御参考トシテ一つ申添ヘタ次第デゴザイマス

○高橋委員長 明日ハ第二委員室、即チ請願委員室デ午前十時ヨリ開會致シタイト思ヒマス、本日ハ此程度デ散會致シマス

午後五時三十一分散會